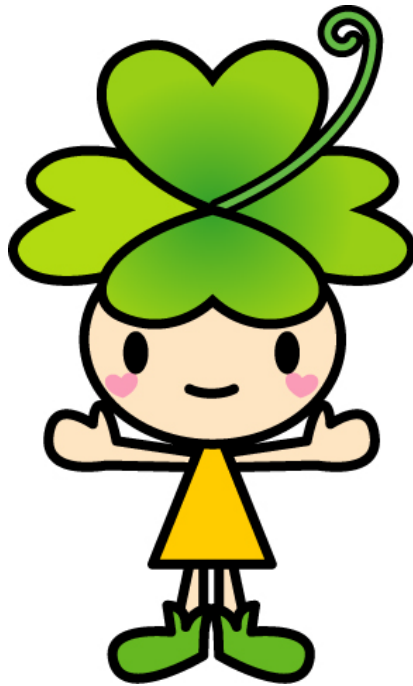


令和3年度
事業報告書



社会福祉法人 市原市社会福祉協議会

目 次

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業 1

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業 3

人財育成及び人材確保

1. 職員研修 4

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業 6

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協活動支援・運営支援 7
2. 地域づくりを支援する事業の充実 10
- ・ふれあいサロン事業
 - ・子どもの居場所活動
 - ・安心生活見守り支援事業
 - ・地域主体の子ども見守り強化事業
 - ・福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業
 - ・地域福祉支援事業
 - ・災害支援ボランティア事業

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実 15
- ・いちほら総合相談・生活支援事業
 - ・各地区における相談事業
2. 地域生活を支援する事業の充実 16
- ・日常生活支援事業
 - ・市原市成年後見支援センター運営事業
 - ・ホームケアサービス事業
3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実 21
- ・いちほらファミリー・サポート・センター事業
 - ・出産前後家事等サポート事業
 - ・生活支援体制整備事業
 - ・居宅介護支援事業
 - ・送迎ボランティアサービス事業
 - ・福祉カー貸出受託事業
 - ・生活福祉資金貸付事業
 - ・療養資金貸付事業
 - ・福祉資金貸付事業
 - ・応急法外援護事業
 - ・新たな生活困窮者支援活動の構築

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化 2 9
 - ・ 地区行動計画推進委員会
 - ・ 小域福祉ネットワーク連絡会議
 - ・ 地区社協連絡会

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成 3 1
 - ・ 人材育成事業
2. ボランティアセンター機能の強化 3 2
 - ・ ボランティアセンター運営事業
3. 地域福祉推進体制の強化 3 8
 - ・ 民生委員・児童委員活動推進事業
 - ・ 共催・後援等事業

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業 3 9
 - ・ 老人福祉センター
 - ・ 姉崎保健福祉センター
 - ・ 三和保健福祉センター
 - ・ 南部保健福祉センター

トップマネジメント、トップセールスの強化

1. 組織運営事業

健全な社会福祉事業の経営と公正な法人運営を維持するため、次のとおり各会議を開催した。

(1) 正副会長会議

期 日	内 容
4月12日	1. 令和3年度社会福祉協議会会議日程について
5月19日	1. 令和3年度第1回理事会及び評議員会上程議案について
6月8日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画策定スケジュールについて 2. 令和3年度第2回理事会上程議案について
7月14日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画素案について 2. 第2回常任委員会及び第3回理事会日程調整について
8月11日	1. 市社協計画の評価について 2. 令和2年度第1回役員研修会について 3. 令和2年度第1回常任委員会及び令和2年度第2回理事会について
9月8日	1. 第3次社協発展強化計画自己評価について 2. 各会議体の日程調整について
10月20日	1. ホームケアサービス事業の廃止について 2. ハラスメントに関する諸規定の整備について 3. 第3次社協発展強化計画の評価について 4. 令和3年度第3回常任委員会について 5. 令和3年度第4回理事会上程議案について
11月10日	1. 役員等の推薦に関する協議について 2. 令和3年度住民会費実績報告 3. 生活福祉資金貸付制度における特例貸付の対応状況について
12月8日	1. 老人福祉センター及び保健福祉センター指定管理制度の運用について
1月12日	1. 令和4年度市原市社会福祉協議会福祉顕彰事業開催について 2. ゆうちょ銀行振込手数料改定について
2月9日	1. 令和4年度人事について
3月9日	1. 令和3年度第5回理事会及び第3回評議員会上程議案について

(2) 理事会及び評議員会

項 目	期 日	議 案 等
監査	5月17日	令和2年度分監査
第1回理事会 (13名出席)	6月8日	1. 令和2年度事業報告の承認について 2. 令和2年度決算の承認について 3. 令和3年度第1回補正予算(案)について 4. 評議員候補者の選任について 5. 評議員選任、解任委員会委員の選任について 6. 令和3年度第1回評議員会の開催について
決議事項提案 (評議員)	6月	1. 令和2年度事業報告の承認について 2. 令和2年度決算の承認について 3. 令和3年度第1回補正予算(案)について 4. 役員の選任について
第2回理事会 (18名出席)	6月25日	1. 会長の選任について 2. 副会長の選任について 3. 常務理事の選任について
第3回理事会 (18名出席)	8月18日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画(最終案)について 2. 市原市社会福祉協議会指定居宅介護支援事業所運営規程の改正について
決議事項提案 (評議員)	8月	1. 第6次市原市地域福祉活動計画(最終案)について
第4回理事会 (18名出席)	11月17日	1. ホームケアサービス事業の廃止について 2. 就業規則の一部改正について 3. 嘱託職員等就業規則の一部改正について 4. 社会福祉法人市原市社会福祉協議会職場におけるハラスメント防止に関する要綱等の制定について
第5回理事会 (16名出席)	3月22日	1. 令和3年度第2回補正予算(案)について 2. 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について 3. 給与規程の一部改正について 4. 会計規程の一部改正について 5. 施設長の任免について 6. 令和4年度事業計画(案)について 7. 令和4年度予算(案)について 8. 令和3年度第3回評議員会の開催について
決議事項提案 (評議員)	3月	1. 令和3年度第2回補正予算(案)について 2. 令和4年度事業計画(案)について 3. 令和4年度予算(案)について 4. 役員の選任について

(3) 常任委員会

期 日	内 容
7月26日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画素案について
8月11日	1. 第6次市原市地域福祉活動計画(最終案)について
11月8日	1. 第3次社協発展強化計画の評価について

(4) 評議員選任・解任委員会

期 日	内 容
7月7日	1. 評議員の選任について

(5) 役員研修会

研修内容	講師	実施方法	配信期間	受講者
成年後見制度利用を取り巻く現状について	佐久間法律事務所 弁護士 佐久間 貴幸 氏	YouTube による 動画配信	3月28日～ 4月30日	役員評議員 73名

成果	<p>【各会議体】 コロナ禍においても、正副会長会、常任委員会、理事会は通常開催(ZOOM開催も有)をし、議論を通じて意思決定することができた。特に地域福祉活動計画の見直しについて意見交換・議論を経て、令和3年9月末に改訂しました。</p> <p>【役員研修会】 コロナ禍における理事、評議員を対象とした役員研修会を初めて動画配信により実施した。99回の視聴があり、新たな研修の形として確立することができた。</p>
課題・方向性	評議員会は定数が多く Zoom による開催も難しいことから、引き続き新たな Web 会議等の開催手法を研究、検討し、議論の場を確保する必要がある。

“社協の見える化・見せる化”の推進

1. 広報事業

社会福祉への意識の高揚と社協の活動・事業への理解、認識の向上を目的に広報活動を行った。

(1) 機関紙「いちほら社協だより」の発行

79,000部を年2回(町会世帯数)、98,350部を年2回(新聞折込み)発行した。
なお、フードパントリー号外として60,000部(新聞折込み)を追加で発行した。

号数	237号	238号	号外	239号	240号
発行日	5月20日	9月5日	10月6日	1月20日	3月5日
頁数	4頁	4頁	2頁	4頁	4頁

(2) ホームページの運営

最新の情報を掲載し、市民の皆様に役立つ福祉情報を発信するため、情報提供の迅速化を図った。

市原市社会福祉協議会ホームページ：<http://www.ichihara-shakyo.or.jp>

(3) SNSの運営

ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を運営し、より多くの皆様に迅速かつ適切な情報を発信した。

Twitter(ツイッター)：https://twitter.com/ichihara_ytb

Facebook(フェイスブック)：<https://www.facebook.com/ichiharayotuba/>

社協公式Line：市社協本部 @111xpewj 社協関係施設 line：@612nqzzy

社協 YouTube：<https://www.youtube.com/channel/UC7NZJKj8QYd0cnHHXXERyXw>

成果	<p>新たに公式ラインを導入(R4.3)し、迅速な情報発信と市民が気軽に情報を得ることのできるツールを加えた。まだまだ閲覧数等は少ないものの、各ツールを利用した情報発信を行った。</p> <p>◇ ホームページ【閲覧回数 10,732回】 ◇ ツイッター【閲覧回数 36,793回】 ◇ フェイスブック【閲覧回数 3,204回】 ◇ 公式ライン【登録者数 110人】 ◇ YouTube【投稿数 7本、総再生回数 1,301回】</p>
課題・方向性	情報発信ツールの積極的な活用と市民への広報を行い利用率の向上を図る。

人財育成及び人材確保

1. 職員研修

「職員研修規程」に基づき、職務の遂行に必要な資格、知識及び技術を習得させるとともに、社会福祉の向上に資するため次のとおり実施した。

(1) 職場研修

研修名	研修内容	期間	研修場所	受講者数
階層別研修(チームリーダー以上の職員)	ハラスメントの正しい理解と未然に防ぐ方法	12月9日	事務局	16名
階層別研修(チームリーダー以下の職員)	「地区社協が望む支援とは…」	12月13日	事務局	23名
全体研修(職員全員)	認知症や発達障害に関するVR体験	3月16日	事務局	28名
総務管理グループ				
第1回	社会福祉法人指導監査への対応について	8月17日	事務局	5名
第2回	後見センターにおける他市の状況報告及び新規導入システムの使用方法について	11月16日	事務局	5名
第3回	社協の組織、会議体と機能について	3月25日	事務局	4名
地域生活支援グループ【生活支援チーム】				
第1回	・第6次地域福祉活動計画の最終案について ・今後の生活支援チーム各種事業及びボランティアセンター事業の推進ポイントについて	12月27日	事務局	8名
第2回	災害ボランティアセンター設置訓練及び災害ボランティア養成講座の企画案について	1月28日	事務局	8名
第3回	令和4年度市社協事業計画に基づく各種事業(予算概要)の推進について	3月28日	事務局	8名
地域生活支援グループ【地域支援チーム】				
第1回	社会福祉法人の地域における公益的な取組について	1月28日	事務局	5名
第2回	重層的体制整備事業について(共助の基盤づくり事業の位置づけ)	2月25日	事務局	5名
地域生活支援グループ【西部エリア推進センター】				
第1回	地域食堂の「あらし」と「これから」について	12月8日	アネッサ	5名
第2回	個別相談の対応による新たな取組の創出について	1月25日	アネッサ	4名
第3回	1. 福祉避難所における地域との連携について 2. 社会福祉施設避難確保計画について	2月9日	アネッサ	5名

地域生活支援グループ【中部・南部エリア推進センター】

第1回	ケース検討から見る日常生活支援について	12月16日	サンハート	3名
第2回	1. 福祉避難所について 2. 福祉避難所における地域との連携について	1月4日	サンハート なのはな館	9名
第3回	地域福祉活動の見える化・見せる化の推進について	3月29日	なのはな館	3名

(2) 職場外研修

研修名	研修内容	期間	研修場所	受講者数
令和3年度社会福祉主事資格認定通信課程（民間社会福祉事業職員課程）春季コース	社会福祉主事資格の取得	4月1日～1年間	オンライン研修	1名
令和3年度社会福祉主事資格認定通信課程（民間社会福祉事業職員課程）秋季コース	社会福祉主事資格の取得	10月1日～1年間	オンライン研修	1名
福祉避難所開設・運営マニュアル作成研修会	各自が作成した福祉避難所開設・運営マニュアルの相互参照及び初動対応について	5月19日	市原市役所 第1庁舎	1名
令和3年度市町村社会福祉協議会会長・事務局長合同研修会	市町村社会福祉協議会による地域における公益的な取組について 今後の社協活動の方向性について	7月16日	オンライン研修	1名
令和3年度日常生活自立支援事業 現任専門員研修	権利擁護活動の必要性について 日常生活自立支援事業の適正な実施の徹底について	8月31日	オンライン研修	1名
令和3年度千葉県コミュニティソーシャルワーカー育成研修	コミュニティソーシャルワークの手法を学び、必要な知識、技術を身につける	9月9日 9月23日 9月25日 12月11日 12月12日	ホテルグリーンタワー幕張 千葉商工会議所幕張メッセ	2名
令和3年度日常生活自立支援事業専門員実践力強化研修会I	日常生活自立支援事業の現況、意義、専門員に求められる基本姿勢、対人援助の基礎知識、意思決定支援、判断能力と契約締結能力に関する理解について	9月27日	オンライン研修	4名
令和3年度市社協合同研修会	みんなに見てもらえる動画の企画作り	12月11日	オンライン研修	5名
包括的支援体制と地域共生社会・共生社会の実現に向けた総合研修	地域を支えるみなさんと新たな福祉実践を考え、実践、行政動向から理論まで学ぶ	12月15日～1月31日	オンライン研修	1名
虐待の発見から関係機関との連携について	高齢者虐待の考え方、事例、地域ケア会議で協議すること、虐待ケースの終結、セルフネグレクトについて	2月4日	オンライン研修	2名

令和3年度 任意後見・補助・保佐等の相談体制強化・広報事業 福祉関係者が知っておきたい「任意後見制度」	任意後見制度の基礎知識について任意後見制度の制度概要について	3月9日	オンライン研修	3名
令和3年度社会福祉協議会全国会議	コロナ禍の経験を踏まえ、社協として孤独、孤立にどのように取り組むか	3月14日 ～	オンライン研修	3名

成 果	令和3年度は職場外研修受講の他、活動計画の改訂に伴い地区担当職員のコーディネート力が更に求められることから、職場研修（階層別研修）としてチームリーダー以下の職員を対象として、地区社協会長の立場から本会会長による、「地区社協が望む支援とは」をテーマに研修を実施した。職員としての役割や業務へ望む姿勢など、実際に地区社協が望んでいる職員のあり方について、改めて共有することができた。
課題・方向性	引き続き職場外研修へ積極的に参加していくとともに、職員個々の能力差を解消するため、各所属におけるチームリーダー、主任を主体としたOJTを強化し、資質向上を図る。

財政基盤の充実・強化

1. 社会福祉基金運用事業

(1) 社会福祉基金管理

幅広い地域福祉活動を進めていくための財源として有効的な活用を行った。

① 積立金

種 別	積立預入先	金額
普通預金	千葉銀行	77,917 円
定額預金	ゆうちょ銀行	10,000,000 円
定期預金	J Aバンク	10,000,000 円
定期預金	千葉興業銀行	10,000,000 円
定期預金	京葉銀行	10,000,000 円
定期預金	君津信用組合	10,000,000 円
積 立 合 計		50,077,917 円

② 債 券

種 別	銘 柄 名	金額
公募地方債	政府保証債第 284 回日本高速道路保有債務返済機構債権	100,000,000 円
公募地方債	千葉県第 10 回公募公債	100,000,000 円
合 計		200,000,000 円

社会福祉基金総額	250,077,917 円
----------	---------------

(2) 社会福祉基金の活用

① 地区社協拠点等整備事業

地区社協の充実・強化を図るため社会福祉基金を取崩し、拠点等整備及び維持管理費の助成を行った。

(整備順)

No.	地区名	拠点整備費	維持管理費	No.	地区名	拠点整備費	維持管理費
1	ちはら台	0円	240,000円	5	三和	108,000円	0円
2	市津	0円	240,000円	6	姉崎	0円	21,562円
3	辰巳台	0円	240,000円	7	国分寺台	0円	60,789円
4	南総	0円	111,139円	8	有秋	0円	21,562円
拠点整備費合計：1地区 108,000円 (H25度からの累計 6,961,050円) 維持管理費合計：7地区 935,052円							

② 事務局運営経費

地区社協の組織力や運営基盤の強化を図るため、事務局運営経費を交付した。

助成団体	助成金額	備考
地区社協	160,000円×11地区=1,760,000円	1地区年額160,000円

③ 地区社協車両貸与事業

地区社協の生活課題を抱える地域住民への生活支援体制と充実強化に資するため車両の貸与（リース）を行った。

地区名	車両リース代	備考
辰巳台	184,140円 (13,420円/月×5回) (16,720円/月×7回)	コーディネーター支援及び買い物代行として

社会福祉基金活用額合計	2,987,192円 (※内 695,052円は、新年度で令和3年度分として取崩し)
-------------	--

みんなで支え合い助け合える地域づくり

1. 小域福祉ネットワーク・地区社協の活動支援・運営支援

小域福祉ネットワークや地区社協で行われる会議に地区担当職員が参加し、必要な情報提供、助言、アドバイスを行う等積極的な支援に取り組んだ。

(1) 小域福祉ネットワーク一覧

地区名	校区名	ネットワーク名	設置年月日	安心生活見守り支援事業
辰巳台	辰巳台東小学校区	辰巳福祉ネットワーク	昭和63年6月26日	○
	辰巳台西小学校区			
	白幡小学校区			
市津	旧市東第二小学校区	市東第二小区小域福祉ネットワーク	平成24年10月3日	○
	湿津小学校区	湿津小学校区小域福祉ネットワーク	平成25年11月27日	○
	市東第一小学校区	市東第一小学校区小域福祉ネットワーク	平成25年11月28日	○
ちはら台	水の江小学校区	水の江小学校区小域福祉ネットワーク	平成18年7月15日	○

ちはら台	清水谷小学校区	清水谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 12 月 1 日	○
	牧園小学校区	牧園小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 11 月 1 日	○
	ちはら台桜小学校区	ちはら台桜小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 30 日	○
国分寺台	国分寺 台西小学校区	国分寺台西小学校区ふれあいネットワーク	平成 19 年 2 月 24 日	○
	国分寺台小学校区	国分寺台小学校区ふれんどネットワーク	平成 22 年 2 月 19 日	○
	国分寺台東小学校区	国分寺台東小学校区思いやりネットワーク	平成 24 年 10 月 30 日	
姉 崎	姉崎小学校区	姉崎小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 2 月 21 日	○
	明神小学校区	明神小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 4 月 25 日	
	青葉台小学校区	青葉台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 22 年 8 月 1 日	○
有 秋	有秋南小学校区	有秋南小学校区安心安全ネットワーク	平成 24 年 1 月 23 日	○
	有秋西小学校区	有秋西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 14 日	
	有秋東小学校区	有秋東小学校区福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 21 日	○
三 和	市西小学校区	市西小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	海上小学校区	海上小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	養老小学校区	養老小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
	光風台小学校区	光風台小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 8 月 2 日	○
南 総	牛久小学校区	牛久小学校区小域福祉ネットワーク	平成 19 年 1 月 26 日	○
	旧内田小学校区	内田地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 1 月 22 日	○
	寺谷小学校区	寺谷小学校区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 2 月 21 日	○
	旧平三小学校区	平三地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 6 月 20 日	○
	鶴舞小学校区	鶴舞地区小域福祉ネットワーク	平成 20 年 7 月 8 日	○
	戸田小学校区	戸田小学校区小域福祉ネットワーク	平成 21 年 2 月 28 日	○
加 茂	旧白鳥小学校区	白鳥地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 22 日	○
	旧富山小学校区	富山地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 23 日	○
	旧高滝小学校区	高滝地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 2 月 25 日	○
	旧里見小学校区	里見地区小域福祉ネットワーク	平成 26 年 3 月 24 日	○
五 井	白金小学校区	白金小学校区スマイルネットワーク	平成 24 年 3 月 24 日	○
	若葉小学校区	わかば福祉ネットワーク	平成 24 年 4 月 12 日	○
	千種小学校区	千種小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 4 月 20 日	○
	東海小学校区	東海小・中学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 5 月 26 日	○
	国府小学校区	国府小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 10 月 9 日	○
	五井小学校区	五井福祉ネットワーク	平成 29 年 12 月 9 日	○
	京葉小学校区	京葉福祉ネットワーク	平成 31 年 2 月 24 日	○
市 原	若宮小学校区	若宮小学校区まんまるネットワーク	平成 22 年 5 月 22 日	○
	石塚小学校区	石塚小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 3 月 25 日	○
	五所小学校区	五所小学校区小域福祉ネットワーク	平成 24 年 7 月 1 日	○
	菊間小学校区	菊間小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 3 月 2 日	○
	八幡小学校区	八幡小学校区小域福祉ネットワーク	平成 25 年 7 月 14 日	○
	市原小学校区	市原小学校区小域ネットワーク	平成 30 年 6 月 2 日	○
合 計	4 4 団体（4 6 学校区）			実施 4 1 団体 （4 3 校区）

小域福祉ネットワークにおける各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R3年度	259日	3,388名
R2年度	205日	2,670名
増 減	54日	718名

成 果	新型コロナウイルスの影響が続く中、少人数の会議等で役員と地区担当職員と一緒に情報を共有し検討したことで、開催日数が増加した。加えて、「今できる」ことに重きを置いた形で活動に取り組めたことで、次年度からの活動再開に向け具体的な展開が図られた。
課題・方向性	今後も新型コロナウイルスの影響が想定されることから、コロナ禍でもできる活動について、他地区の情報を取り入れるなど、地区担当職員を通じた積極的な情報提供や活動の助言に取り組む、活動の充実を図る。

(2) 地区社協事業一覧

		辰台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
基本事業	ふれあいサロン事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	広報・啓発事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	歳末たすけあい運動協力事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	連携・協働体制づくり事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	高齢者地域支え合い事業(第2層協議体)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地区行動計画策定・推進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
先駆的・開拓的事业	日常生活支援事業 (住民参加型在宅福祉サービス)	○	○	○	○		○	○				
	日常生活支援事業 (事業化・活性化推進サービス)	○	○				○					
	相談支援事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人材育成事業	○	○	○	○							
	災害支援ボランティア事業			○					○			

地区社協における各会議体の実施概要

年 度	開催日数	延参加人数
R3年度	297日	2,801名
R2年度	266日	2,258名
増 減	31日	543名

成 果	新型コロナウイルスの影響が続く中、市社協として「地域福祉活動等の再開に向けた考え方」を示し、再開のガイドラインとして共有を図った。また、そのガイドラインに基づき役員と地区担当職員と一緒に活動の再開に向け検討し、日常生活支援など「今できること」に重きを置いた形で活動に取り組めたことで具体的な福祉活動の展開が図られた。
課題・方向性	市社協の内部組織として、第6次地域福祉活動計画の方向性に基づき、今後も、住民主体・住民参加の地域福祉活動のさらなる推進が図れるよう、地区担当職員を通じ、積極的な活動の周知、活動に関する相談の受付及び必要な情報提供など継続的な支援に努め、活動の充実を図る。

2. 地域づくりを支援する事業の充実

(1) ふれあいサロン事業の推進

① いきいきサロン

高齢者等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	4 会場	30 日	431 名	187 名
市 津	10 会場	31 日	607 名	90 名
国分寺台	3 会場	0 日	0 名	0 名
ちはら台	2 会場	0 日	0 名	0 名
姉 崎	2 会場	0 日	0 名	0 名
有 秋	2 会場	6 日	135 名	58 名
南 総	14 会場	22 日	461 名	126 名
加 茂	1 会場	0 日	0 名	0 名
五 井	4 会場	1 日	10 名	8 名
市 原	6 会場	18 日	234 名	84 名
合 計	48 会場	108 日	1,878 名	553 名
R2 年度	47 会場	128 日	2,009 名	621 名
増 減	1 会場	△20 日	△131 名	△68 名

② はつらつサロン

心身障がい者（児）等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地 区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
国分寺台	1 会場	2 日	18 名	9 名
ちはら台	1 会場	1 日	5 名	16 名
合 計	2 会場	3 日	23 名	25 名
R2 年度	2 会場	2 日	11 名	10 名
増 減	—	1 日	12 名	15 名

③ 子育てサロン

子育て家庭等に対して、地域住民やボランティアの参画を得て、ふれあいの場や仲間づくりの場等を提供し、地域の中で誰もが安心して暮らせるよう、福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	会場数	開催日数	延参加者数	延支援者数
辰巳台	2会場	16日	100名	32名
市津	1会場	7日	73名	62名
国分寺台	1会場	14日	106名	57名
ちはら台	3会場	54日	381名	235名
姉崎	1会場	3日	82名	39名
有秋	1会場	4日	18名	27名
三和	1会場	8日	52名	90名
南総	1会場	6日	102名	86名
五井	1会場	9日	265名	164名
市原	4会場	39日	611名	154名
合計	16会場	160日	1,790名	946名
R2年度	16会場	88日	1,166名	570名
増減	—	77日	624名	376名

サロン事業 合計	年度	開催日数	延参加者数	延支援者数
	R3年度	271日	3,691名	1,524名
	R2年度	218日	3,186名	1,201名
	増減	53日	505名	323名

成果	新型感染症の影響が続く中、感染対策を講じながら少しずつ活動を再開し、66会場で、延べ3,691名参加(利用)いただき、コロナ禍で不安を抱えがちな子育て家庭や障がい者、高齢者の孤立防止及び集い・交流の場となった。
課題・方向性	地域共生社会づくりの視点を踏まえ、現在対象者ごとに実施している「ふれあいサロン事業」を、支援する人・される人が垣根を超えて交流でき、利用者を限定せず誰もが気軽に参加できる「(仮称)共生型サロン」への移行を図る。

(2) 子どもの居場所活動の推進

① 地域・子ども食堂

地区社協と地域の関係団体等が協働し、子どもたちが多様な地域の方々と食事等を通じたふれあいや健全育成の機会を提供し、地域で子どもたちが安心して暮らせるような福祉コミュニティづくりを推進するために実施した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
辰巳台	11日	596名	110名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。レクリエーションや学習支援、食事の提供を行い世代間交流を図った。(京葉教育文化センターとの共催) 【名称：トイトイB】

国分寺台	22 日	137 名	144 名	地域での子どもたちが学校、家以外での居場所として集まれる場として開催。学習支援や食事の提供を通じて世代間交流を図った。 【名称：地域食堂コンパス】
------	------	-------	-------	--

子どもの居場所 合計	年 度	開催日数	参加者数	支援者数
	R3 年度	33 日	733 名	254 名
	R2 年度	9 日	108 名	68 名
	増 減	24 日	625 名	186 名

② 地域・子ども食堂ネットワーク準備会

市内で地域・子ども食堂を実施する団体等の情報交換や相互交流を促進するとともに、活動の輪を広げることが目的としたネットワーク設置に向け、準備会を開催した。

項 目	期 日	参加団体数	内 容
第 1 回	11 月 24 日	4 団体	○ネットワーク設立の目的について ○ネットワークの規約について ○ネットワークの名称（愛称）について ○意見交換
第 2 回	3 月 9 日	7 団体	○ネットワーク規約の決定について ○ネットワークの名称（愛称）について ○令和 4 年度の年間活動について ○意見交換

成 果	市と連携し、「地域・子ども食堂」の実践者同士の情報交換や交流を図り、活動を広げるためのネットワーク設立に向けた準備会を設置し、ネットワークの役割や機能について関係者間で共有が図られた。また、市社協がその事務局となったことで、今後の活動の推進へ向けた体制が構築された。
課題・方向性	これまで住民の自発的な活動としての取り組まれていた地域・子ども食堂活動を、子どもの居場所づくり活動の一環として、その推進及び普及に取り組む。また、行政等と連携しながら、地域・子ども食堂ネットワークの事務局として、実践者の活動の推進、新規設置支援、住民への周知に向けた情報発信に取り組む。

(3) 安心生活見守り支援事業の推進

① 安心生活見守り支援事業

一人暮らし高齢者や障がい者世帯、高齢者のみ世帯等の社会的な孤立を防ぐために、定期的な見守り・声掛けを行う安心生活見守り支援事業を実施した。

【地区別実績】

地 区	見守り希望者数	訪問員数	延訪問回数
辰巳台地区	61 名	70 名	862 回
市津地区	32 名	85 名	429 回
ちはら台地区	20 名	25 名	587 回
国分寺台地区	65 名	37 名	1,061 回
姉崎地区	185 名	224 名	2,382 回
有秋地区	19 名	32 名	237 回
三和地区	120 名	93 名	1,953 回
南総地区	179 名	181 名	2,511 回

加茂地区	71名	107名	958回	
五井地区	162名	175名	2,197回	
市原地区	249名	264名	5,902回	
年 度	実施数	見守り希望者数	安心訪問員数	延訪問回数
R3年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,163名	1,293名	19,079名
R2年度	41 ネットワーク (43 小学校区)	1,192名	1,327名	20,015回
増 減	—	△29名	△34名	△936回

② 安心生活見守り支援事業安心訪問員交流会【 ※新型コロナウイルスの影響により中止 】

安心生活見守り支援事業関係者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の見守り活動の充実に繋げることを目的に下記の通り計画した。

期 日	令和4年1月18日（月）
場 所	姉崎保健福祉センター（アネッサ）体育室
参加者	安心生活見守り支援事業安心訪問員（90名）
内 容	<p>第1部 講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター ふるさと ・地域包括支援センター 市津ちはら台 ・地域包括支援センター トータス ・市原市地域包括支援センター（福祉総合相談センター） <p>「安心訪問員の“気づき”や“つなぐ”重要性」「意見交換会」</p> <p>第2部 意見交換会</p> <p>「見守り活動について語り合おう 「～コロナ禍における今後の見守り活動～」</p>

成 果	感染防止の観点から、直接訪問での対応が難しい状況であったが、1,293名の安心訪問員による、継続的な見守り活動が実施された。人とのコミュニケーションが少なくなり、不安に思う一人暮らし高齢者等に孤立や孤独を感じさせないよう、メッセージカードやチラシ等を活用しながら、見守り支援活動を通じた地域との繋がりづくりが展開された。
課題・方向性	未実施校区に対し、事業実施に繋がるよう必要性や意義について関係者の理解を求めていく。また、交流会を通じて、活動する中で抱える問題点や課題等について、安心訪問員と情報交換を行いながら、解決に向けて関係機関と連携を図る。

(4) 地域主体の子ども見守り強化事業（市原市補助事業）

ちはら台地区をモデル地区に、満2歳から学齢前の未就学児を養育している家庭に対し、地域の協力者による戸別訪問などを通じ、子どもや家庭の状況を地域でゆるやかに見守る活動を実施した。

地 区	延活動者数	延訪問回数
ちはら台地区	104名	54回

成 果	戸別訪問により、対象児童の状況を確認することができた。また、対象家庭に地域イベントやサロン活動を周知することで、地域と子育て世帯の交流が生まれ、地域で主体的・継続的に子どもを見守る気運が高まった。
課題・方向性	子育て世帯に対し、孤立感や孤独感を抱かせない取組みを継続するとともに、地域全体で子どもをゆるやかに見守る体制の構築に取り組む。

(5) 福祉バザー事業・歳末たすけあい募金事業の推進

歳末たすけあい運動への協力として実施していた「福祉バザー」については、新型コロナウイルスの影響により中止とし、「歳末たすけあい募金」を実施した。

〈 歳末たすけあい募金 〉

地区名	募金額	募金額 (R2)	前年比	備考
市 原	713,950 円	695,920 円	18,030 円	
五 井	817,922 円	1,239,850 円	△421,928 円	一部町会が千種地区に分離
加 茂	186,400 円	145,500 円	40,900 円	
国分寺台	374,611 円	386,101 円	△11,490 円	
千 種	145,000 円	—	—	令和3年度より新設
姉 崎	399,300 円	464,414 円	△65,114 円	福祉バザー中止のため、 歳末募金を実施
三 和	261,500 円	371,000 円	△109,500 円	
市 津	563,336 円	836,592 円	△273,256 円	
辰巳台	264,833 円	558,823 円	△293,990 円	
南 総	749,370 円	749,290 円	80 円	
有 秋	350,980 円	362,700 円	△11,720 円	
ちはら台	16,917 円	25,576 円	△8,659 円	
街頭募金	21,000 円	12,000 円	9,000 円	
個人・団体	5,500 円	38,504 円	△33,004 円	
合 計	4,870,619 円	5,886,270 円	△1,015,651 円	

(6) 地域福祉支援事業の推進

歳末たすけあい事業の一環として歳末の時期に支援を必要とする方々が安心して暮らすことができる地域社会づくりの取り組みを推進するため、地域福祉活動を行う団体に助成を行った。

内 容	事業実績(R3 度)	R2 度	前年度比較
地域福祉支援事業	導入型：160,000 円 (4 団体) 交流型：300,000 円 (6 団体) 個別 (訪問) 支援型：590,000 円 (10 団体) 合 計：1,050,000 円 (20 団体)	691,000 円	359,000 円

成 果	コロナ禍で事業実施が危ぶまれたが、地区社協及び小域福祉ネットワークの20団体に実施していただいた。事業の見直しを行ったことで、昨年よりも他団体と連携しての事業実施や、地域の生活支援ニーズの把握につながる取組の充実につながった。また、本事業を活用し、姉崎地区で「子どもの居場所づくり」に向けた事業を試行的に実施し、日常の取組の拡充に繋がる一助となった。
課題・方向性	本事業をきっかけに日常的な生活支援活動に発展出来るよう、地区担当者を通じて事業の必要性や意義等について、関係者に提案・説明していくとともに、全市的な事業展開を図る。

(7) 災害支援ボランティア事業の推進

災害にも強い地域づくりに向けて、地域特性に応じた防災・減災活動（の学習）について計画した。

地区	開催日数	参加者数	支援者数	内容
ちはら台	1日	17名	4名	災害ボランティアセンターの役割について等、災害時地域で主体的に支え合い活動を進めていくための研修会を開催し、「地域住民主体の防災」への意識醸成を図った。
南総	1日	41名	6名	地域住民を対象とした研修会を開催。市原市危機管理課を講師に「南総地区の災害リスクについて」の講演及び模擬訓練を通じ、災害に対する意識醸成を図った。

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R3年度	2地区	2日	58名	10名
R2年度	-	-	-	-
増減	2地区	2日	58名	10名

成果	新型感染症感染対策を講じながら、2地区で事業に取り組み、大規模災害に備えた地域での防災対策に資する活動に取り組んだ。ちはら台地区では、新型感染症の影響により規模は縮小となったが、市社協と連携し、サテライト災害ボランティアセンター設置を見据えた活動に関する研修会を行い、災害時の地区の役割等の共通理解に繋がった。
課題・方向性	災害時の対応力向上に向け、地域と市社協との連携・協働体制の強化が必要となる。引き続き地域住民への防災・減災の意識啓発を図っていくとともに、市社協の「災害ボランティアセンター設置運営訓練」と連動した「サテライト災害ボランティアセンター設置運営訓練」の実施等、市社協と連携・協働による事業展開を図る。

みんなの生活を支えるための体制づくり

1. 総合的な相談支援体制の充実

(1) いちはら総合相談・生活支援事業

誰もが住み慣れた地域で、自立して暮らせるまちづくりを目指して、住民が抱える生活課題の解決に向けて、包括的かつ重層的な相談支援を行い、課題の解決に向けた個別支援や関係機関との連絡調整を行った。

年度	生計	職業生業	教育青少年	障がい者福祉	冠婚葬祭	療養健康	生活	その他	合計
R3年度	774件	0件	156件	3件	2件	10件	195件	7件	1,147件
R2年度	1,955件	3件	113件	7件	0件	6件	198件	135件	2,417件
増減	△1,181件	△3件	43件	△4件	2件	4件	△3件	△128件	△1,270件

※各種貸付事業、ファミリー・サポート・センター事業、出産前後家事等サポート事業における相談も含む。

(2) 各地区における相談事業 【※一部、新型感染症の影響により中止】

地域住民が気軽にできる窓口であり、市社協や関係機関等へのつなぎ役・橋渡し役を担う相談支援事業を行った。

地区	開催日数	延相談人数	延支援者数	内容等
辰巳台	8日	2名	16名	日常生活上の悩みや困りごとに対し、地区住民が身近に相談できる場所を提供することを目的し、辰巳公民館会議室にて毎月第1日曜日13時～16時に開催。
市津	102日	28名	204名	毎週月・水曜日の10時～12時、拠点を活用した相談支援活動を実施。

国分寺台	52日	63名	91名	地区内の様々な問題をサロン開設時や電話、事務所への来所で受付、課題の発見とその解決に向けた事業展開を実施。
ちはら台	136日	23名	176名	地区社協事務所にて相談ブースを設け、週5回、10時～12時に日常生活上の困りごと、助け合い利用相談などを窓口、電話対応等で実施。また、専門機関の協力を得て、月1回「福祉総合相談窓口」を設置。
姉崎	9日	8名	18名	毎月第1水曜日13時～16時に地区社協理事がアネッサ相談室にて実施。
有秋	25日	0名	50名	地域住民の悩み事や困りごとに対し、毎週月曜日10時～12時に公民館にて民生児童委員、地区社協関係者が対応。
三和	8日	21名	90名	子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
南総	52日	6名	70名	ふれあいいきいきサロン開設時、南部保健福祉センターにおいては毎週土曜日13時～15時に相談窓口（第3土曜日は障がい者専用窓口）を併設。
市原	2日	2名	22名	ふれあいいきいきサロン、子育てサロン開催時に気軽に相談できる場として実施。
五井	10日	13名	20名	ふれあいいきいきサロン開設時に、五井公民館の一部屋において誰でも気軽に相談に来られる場として開設。
加茂	335日	108名	187名	地区の社会福祉法人と連携し、施設内に誰でも相談できる窓口を設置。

年度	開催地区	開催日数	延相談者数	延支援者数
R3年度	11地区	737日	272名	902名
R2年度	8地区	360日	143名	595名
増減	3地区	377日	129名	307名

成果	法人本部では、新型コロナウイルスの影響に伴い経済的な課題を抱える世帯に対し、生活資金貸付（緊急小口資金等）の相談を切り口に、専門機関等と連携しながら生活の改善に向けた支援に努めた。また、地域の相談窓口（活動）では、全地区で事業が開始となった。コロナ禍においても積極的に窓口を開設し、地域の身近な相談場所として住民に安心感を与えるとともに、困難ケースなどにおける専門機関への「つなぎ・橋渡し役」としての役割を担った。
課題・方向性	第6次活動計画策定に伴う取組の検証を踏まえ、これまでの相談体制の抜本的な見直しを図り、地域関係者と連携した住民が抱える生活課題に「気づき」、課題解決に向けた支援へ「つなぎ」その後の生活を「見守る」機能を備えた、地区ごとの新たな相談支援体制の構築に取り組む。

2. 地域生活を支援する事業の充実

(1) 日常生活支援事業の推進

公的制度や民間サービスで補えない住民の日常生活上の生活課題を解決するために、住民相互による支え合い・助け合いの活動を行った。

① 住民参加型在宅福祉サービス

日常生活上の課題解決のために取り組む住民参加型在宅福祉サービス等の個別支援活動

地区	開設日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	312日	907名	1,140名	辰巳台地区内に居住する高齢者や障がい者、その他日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、日常支援、子育て支援等の有償サービスを提供。【名称：たすけあい辰巳ねこの手】

ちはら台	77日	77名	77名	ちはら台地区内に居住する日常生活に手助けを必要とする人たちに対して、家事支援、付添支援等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい隊】
三和	230日	129名	388名	三和地区内に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：たすけあい三和】
有秋	63日	63名	292名	有秋地区内の一部町会にて、一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。今後地区内に活動を広めていく。 【名称：くらしのささえあい】
市津	131日	155名	334名	市津地区に居住する一人暮らし高齢者や高齢者世帯、障がい者世帯をに対して、家事作業、屋外作業等の有償サービスを提供。 【名称：市津 まごの手】
国分寺台	1日	1名	4名	国分寺台地区内に居住する高齢者世帯や生活困窮者等で、各関係団体より支援依頼があった人に対して、屋内外の有償サービスを提供。

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R3年度	6地区	814日	1,332名	2,235名
R2年度	5地区	600日	1,377名	2,165名
増減	1地区	214日	△45名	70名

② 事業化・活性化推進サービス 【※一部、新型コロナウイルスの影響により中止】

住民参加型在宅福祉サービスにつなげるための取り掛かりとして部分的に支援する活動を行った。

地区	開催日数	延利用者数	延支援者数	内容等
辰巳台	20日	196名	20名	高齢者を主な対象として、社会福祉施設（辰巳萬緑苑）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
市津	17日	304名	102名	65歳以上の一人暮らし高齢者、65歳以上で構成される世帯、自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（清流園、グリーンホーム）の協力を得て月2回買い物ツアーを実施。
有秋	5日	49名	14名	65歳以上の一人暮らし高齢者、障がい者で自力での買い物に困難を抱える方を対象として、社会福祉施設（グランモア和光苑）の協力を得て月1回買い物ツアーを実施。

年度	開催地区	開催日数	延利用者数	延支援者数
R3年度	3地区	42日	549名	136名
R2年度	2地区	36日	420名	107名
増減	1地区	6日	129名	29名

③ 日常生活支援事業交流会

日常生活支援事業実践者同士の交流や情報交換の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、未実施地区における取組の契機になることを目的に下記の通り実施した。

期日	令和3年12月10日（金）
場所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 多目的室1.2
参加者	日常生活支援事業協力会員、地区社会福祉協議会関係者、日常生活支援事業に関心のある方（49名）

内 容	第1部 実践発表 ・辰巳台地区たすけあい辰巳ねこの手 ・有秋地区くらしのささえあい 第2部 情報交換会 「日常生活支援事業について語り合おう」
-----	---

成 果	市内5地区で住民相互による支え合い・助け合いの活動が実施され、国分寺台地区でも新たに住民参加型在宅福祉サービスの実施に向け試行実施が行われるなど、生活に課題を抱える住民の日常生活支援の拡充が図られた。新たな取組として、活動の実践者と事業未実施の地区社協を加えた交流会を開催したことで、事業に対する認識が深まり、自分たちの地区で出来る事は何かを考えるきっかけづくりができた。
課題・方向性	より安定的な事業展開が図れるよう、市で実施している「市原市住民主体訪問型サービス」への移行を図るとともに、今後も定期的に交流会を開催し、知見を広げられる環境を提供しながら全市的な事業展開を目指す。

(2) 市原市成年後見支援センター運営事業

市原市より成年後見支援センター運営を受託し、成年後見支援制度利用が必要な方に適切に届くよう、「制度普及」、本人や親族、福祉医療関係者、既以後見人等に受任されている方を対象とした「相談・支援」、「法人後見受任」を活動中心に運営を展開した。また、後見制度と両輪とされている福祉サービス利用援助事業の拡充を図った。

① 成年後見制度相談事業（市原市委託事業）

【対応実績】

新規相談・支援総数

区 分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
支援総数 (新規相談件数)	1,309件 (229件)	30件 (8件)	167件 (19件)	43件 (13件)	1,549件 (269件)

ア) 相談手段別支援内訳

区 分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
電話	946件	19件	105件	22件	1,092件
郵便・メール	31件	0件	2件	5件	38件
訪問	179件	0件	45件	10件	234件
来局	121件	10件	10件	5件	146件
調整会議	30件	1件	4件	0件	35件
ケース会議	2件	0件	1件	0件	3件
その他	0件	0件	0件	1件	1件
合 計	1,309件	30件	167件	43件	1,549件

イ) 相談内容別支援内訳

区 分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計
法定後見	148件	2件	22件	7件	179件
任意後見	10件	0件	0件	0件	10件
弁護士相談	34件	5件	2件	2件	43件
専門職相談	7件	0件	0件	0件	7件
福祉機関紹介	5件	0件	0件	0件	5件

公証人役場	0件	0件	0件	0件	0件
遺言相続	17件	0件	0件	0件	17件
事務委任契約	6件	0件	0件	0件	6件
虐待など	1件	0件	0件	0件	1件
福祉サービス利用援助事業	105件	0件	5件	5件	115件
その他	9件	2件	0件	3件	14件
申立支援	568件	21件	17件	15件	621件
後見人支援	28件	0件	2件	0件	30件
法人後見	371件	0件	119件	11件	501件
合 計	1,309件	30件	167件	43件	1,549件

ウ) 弁護士による成年後見制度専門相談

【会場：市原市社会福祉協議会（事務局） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2年度	増減
相談者数	3名	3名	3名	3名	2名	3名	3名	2名	2名	3名	2名	2名	31名	20名	11名

【会場：市原市南部保健福祉センター（年2回） 時間：午後1時30分～午後4時30分】

月	6	10	計	R2年度	増減
相談者数	2名	1名	3名	3名	0名

※1…相談者1名あたりの相談時間：60分

※2…1日の相談枠数：3名

エ) 制度利用の要否やケース検討、市長申立について、司法福祉専門職と市関係機関で構成された「調整会議」を実施。

開催日	参加者数	内 容					審議総数
		市長申立	ケース検討	法人後見受任	経過報告	その他	
4月6日	9名	1件	1件	2件	1件	0件	5件
5月11日	11名	0件	2件	0件	1件	0件	3件
6月1日	12名	3件	1件	0件	2件	0件	6件
7月6日	8名	0件	0件	2件	0件	0件	2件
8月3日	11名	4件	0件	0件	0件	0件	4件
9月7日	9名	1件	0件	2件	1件	0件	4件
10月5日	11名	1件	1件	0件	0件	0件	2件
11月2日	11名	1件	2件	2件	0件	0件	5件
12月（開催中止）		0件	0件	0件	0件	0件	0件
1月11日	9名	1件	0件	0件	0件	0件	1件
2月1日	9名	1件	0件	0件	0件	0件	1件
3月1日	10名	1件	1件	0件	0件	0件	2件
合 計	110名	14件	8件	8件	5件	0件	35件

オ) 広報啓発活動として、後見制度概要の広報活動、センター活動普及や講演会を実施。

実施日	内 容
5月18日	地域包括支援センター連絡会にてセンター活動説明（ZOOM参加）
5月20日	いちばら社協だより5月号1面にセンター事業掲載（町会回覧で全戸配布）
5月28日	銀杏の杜（相談支援事業所連絡会）にてセンター活動講演
6月1日～10日	6月定例民協（11地区）テーマ学習担当
7月20日	市原市障害者福祉団体連絡協議会に参加 「市原市成年後見支援センターの業務と成年後見制度について」講演
11月21日	若宮団地まちづくり協議会主催セミナーに参加 「市原市成年後見支援と家族信託に関するセミナー」講演
2月1日	いちばら福祉ネット はーと通信 VOL. 61 「市原市成年後見支援センター活動記事掲載」
3月28日～4月30日 （動画配信）	成年後見制度講演会 （※新型コロナウイルス拡大防止の観点から研修会が開催中止となり動画配信）

講演：『成年後見制度利用を取り巻く現状について』 講師：千葉県弁護士会 高齢者・障がい者支援センター委員 佐久間法律事務所 弁護士 佐久間 貴幸 氏 活動報告：市原市成年後見支援センターの活動について 対象者：社協役員及び評議員（72名）及び社協職員 （※職員は各部署の研修として視聴）
--

②法人後見事業

調整会議において制度利用が適正と承認された方の候補者として、家庭裁判所へ申立をし、後見人等として受任をした。

区分	後見人	保佐人	補助人	受任件数
高齢者	2件	1件	1件	4件
精神障がい者	0件	1件	0件	1件
知的障がい者	0件	0件	0件	0件
その他	0件	0件	1件	1件
合 計	2件	2件	2件	6件

③福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）

高齢者や障がい者に対し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理等の援助を行うことにより、地域での自立した生活を送ることを支援するために、福祉サービス利用援助事業を実施した。

【対応実績】

ア) 新規相談・契約件数

区 分	高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	合 計	R2年度	増減
新規相談件数	105件	0件	5件	5件	115件	87件	28件
新規支援・訪問回数	390件	0件	8件	14件	434件	539件	△105件
新規契約件数	42件	0件	1件	4件	43件	35件	8件

イ) 契約者訪問・相談支援件数

月	契約者数	訪問支援件数	相談支援件数	支援合計	R2年度	増減
4	79件	133件	299件	432件	260件	72件
5	80件	118件	233件	351件	310件	41件
6	84件	130件	245件	375件	360件	15件
7	83件	126件	248件	374件	319件	55件
8	86件	122件	251件	373件	294件	79件
9	87件	129件	244件	373件	299件	74件
10	91件	156件	232件	388件	394件	△6件
11	94件	136件	245件	381件	392件	△11件
12	82件	163件	228件	391件	434件	△43件
1	97件	137件	231件	368件	394件	△26件
2	94件	125件	212件	337件	357件	△20件
3	97件	140件	347件	487件	422件	65件
合計	1,064件	1,615件	3,015件	4,630件	4,235件	395件

成果	センター開設初年度として当事者団体や関係機関等を中心に広報活動を行い、市民からの問い合わせや関係機関等からの紹介など、相談件数が増加した。中でも申立書作成支援が4割を占め、記入方法等何度も支援を繰り返し、家庭裁判所への申立に繋げることができた。また、初期相談の際には、福祉サービス利用援助事業等、他制度への振り分けをするなど、市民が本当に必要とする制度へ繋ぎ、課題解決に向けた。今年度から受任を開始した法人後見については、6件を受任した。 【後見人：2件、保佐人：2件、補助人：2件】
課題・方向性	まだまだ周知不足の面もあるため、出前講座的な活動も加えて広報活動の一層の充実とセンター機能の拡充を図る。

(4) ホームケアサービス事業（令和3年度事業終了）

在宅高齢者や心身障がい者、母子・父子家庭等で公的な福祉サービスで対応できない家事援助等の支援を必要としている方を対象に、住民参加型の有償生活支援サービスを提供し、更なる住民相互の支え合い・助け合い活動の増進を図るため見直しを図った。

【活動状況】

	利用者数			活動協力会員数			活動日数			活動時間数		
	R3度	R2度	増減	R3度	R2度	増減	R3度	R2度	増減	R3度	R2度	増減
年間	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0日	0日	0日	0時間	0時間	0時間

成果	福祉諸制度の改正に伴う地域共生社会づくりなどを踏まえ、公的な訪問介護サービスや地区社協を主体に取り組む日常生活支援事業(住民参加型在宅福祉サービス)などの拡充状況や今後の見込みを踏まえ、本事業の見直し(廃止)を図った。
課題・方向性	

3. 子育て・高齢者・障がい者・生活困窮者支援活動の充実

(1) 子育て支援活動の充実

① いちはらファミリー・サポート・センター事業（市受託事業）

公的な子育てサービスで対応できない短時間の預かり等、住民相互（協力会員、利用会員）による援助活動を通じた子育て環境（仕事と育児の両立）を支援するため、いはらファミリー・サポート・センター事業を実施した。

年度	相談件数（延数）	利用会員登録者数	協力会員登録者数	両方会員登録者数
R3度	75件	326名	65名	29名
R2度	49件	554名	123名	28名
増減	26件	△228名	△58名	1名

【活動状況】

（令和3年3月31日現在）

活動内容	月												R3度	R2度	増減
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育所・幼稚園の登園前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1件	2件	△1件
保育所・幼稚園の送り	4	7	8	2	9	8	11	17	6	1	3	6	82件	42件	40件
保育所・幼稚園の迎え	6	10	14	17	3	6	14	17	4	3	0	1	95件	87件	8件
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	6件	41件	△35件
学童の放課後の預かり	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2件	1件	1件
放課後児童クラブの迎え	2	0	1	0	0	0	1	5	13	0	0	1	23件	6件	17件
放課後児童クラブ終了後の預かり	2	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	7件	6件	1件

子どもの習い事等の場合の援助	17	21	26	18	7	28	28	23	19	18	12	17	234件	85件	149件
保育所・学校等休み時の援助	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3件	3件	0件
保育所等入所前の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	5件	△5件
保護者等の求職活動中の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	3件	△3件
保護者等の外出の場合の援助	0	1	0	0	0	0	0	2	1	2	2	2	10件	5件	5件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1件	3件	△2件
その他	4	1	0	0	0	0	0	7	0	1	0	0	13件	15件	△2件
小学校登校前の預かり	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7件	7件	0件
合計	39	45	49	37	20	43	55	79	45	25	17	30	484件	311件	173件

成果	<p>新型コロナウイルスの影響もあったが、市民生活が徐々に戻りつつあり活動件数は増加傾向となった。今年度は、会員の意向を踏まえ、利用要件や継続的な活動が困難となった会員の登録整理を実施し、円滑な利用マッチングに繋がるための環境整備を図った。また、事業全体の底上げに繋がる広報動画を作成するとともに、新たな協力会員の確保に向けた養成講座や研修交流会の開催を通じた会員の活動フォローに努めた。</p>
課題・方向性	<p>地区により協力会員数に偏りがあるため、利用会員からのニーズに応えきれていない。SNSや、広報用動画を用い、幅広い年齢層の方へ事業周知と協力会員募集を行っていく。</p>

② 出産前後家事サポート事業（市受託事業）

妊娠中や出産前後の不安定な時期に、家事または育児支援等を必要とする家庭に、ホームヘルパーを派遣し、子育てしやすい環境づくりに向けたコーディネート業務を展開した。

年度	相談件数（延数）	利用者数（実人数）	利用回数（延数）	利用時間（延時間）
R3年度	41件	78名	242回	452時間
R2年度	35件	46名	157回	310時間
増減	6件	32名	85回	142時間

【活動状況】

（令和3年3月31日現在）

活動内容	月												R3度	R2度	増減	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
家事援助	食事の準備・後片付け	22	16	21	16	21	15	7	9	13	16	18	25	199件	148件	51件
	衣類の洗濯・補修	5	10	5	7	5	1	3	2	9	14	6	10	77件	33件	44件
	居室等の掃除・整理整頓	13	13	15	10	13	9	6	5	12	19	18	28	161件	60件	101件
	生活必需品の買い物	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	6件	0件	6件
	関係機関との連絡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件	5件	△4件
	その他必要な家事援助	0	0	0	1	4	4	5	0	0	0	0	0	14件	5件	9件
	小計	41	39	42	35	43	29	21	16	34	49	42	67	458件	251件	207件

育児 援助	授乳	0	1	1	1	0	0	0	2	1	1	0	1	8件	1件	7件
	おむつ交換	0	1	4	0	16	0	0	1	3	3	3	0	31件	4件	27件
	沐浴介助	0	1	0	0	16	0	1	2	0	0	0	0	20件	3件	17件
	適切な育児環境の整備	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	5	9件	0件	9件
	その他必要な育児援助等	0	0	5	3	4	2	2	3	4	4	6	8	41件	15件	26件
	小計	0	3	10	5	36	2	3	9	8	8	11	14	109件	23件	86件
合計		41	42	52	40	79	31	24	25	42	57	53	81	567件	274件	293件

成果	<p>新型コロナウイルスの影響があったものの、行政による利用料改訂(初回無料)など利便性の向上が図られたことから利用件数は増加傾向となった。産後の育児不安を抱える家庭が増え、市ネウボラセンター、子育て支援センター、市子ども未来部との連携により、利用者世帯に寄り添った支援を行うことが出来た。ヘルパー事業者とも情報共有を図り、担当ヘルパーが利用者世帯の詳細な状況まで把握することで、世帯毎のニーズに合った支援が実施され喜びや安心の声をいただいた。</p>
課題・方向性	<p>全事業所による同水準のサービス提供がなされるよう、事業者間の情報共有の場づくりが必要。市担当課と連携し、事業者との意見交換会などを企画していきたい。また、地区によってはヘルパーが不足し支援できないケースもあることから、市担当課と連携し事業者の開拓に取り組んでいく。</p>

(2) 高齢者支援活動の充実

① 生活支援体制整備事業（市受託事業）

高齢者を地域全体で支える「地域包括ケアシステム」の構築に向け、その調整役を担う「第1層、第2層生活支援コーディネーター（SC）」と地区社協圏域の「第2層協議体」との連携・協働による「生活支援サービス等」の仕組みづくりに向けた検討に努めた。

<第2層協議体・SC活動実績>

	取り組み項目	辰巳台	市津	ちはら台	国分寺台	姉崎	有秋	三和	南総	加茂	五井	市原
地域 ア セ ス メ ン ト	地域資源把握・取り纏め	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生活課題・ニーズ把握 (アンケート調査等)		○					○		○		○
	生活課題・ニーズ把握 (個別ケースの検討等)				○	○			○		○	○
地域 で 必 要 な 仕 組 み づ く り	見守りから生活支援 (新たな見守り体制の構築)	○			○		○		○	○	○	○
	地域資源とのマッチング (マッチング会議、便利帳等)	○			○	○	○		○	○	○	○
	住民互助の生活支援 (ゴミ出し、買い物、屋内 外支援、移動等)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	交流の場から生活支援 (居場所等での生活支援)					○						
担 い 手 の 育 成	高齢者の活躍の場づくり (生活支援活動等の検討)	○	○	○	○	○	○	○				
	活動支援者の意識調査、 養成研修、説明会開催等		○	○								

イ) 要介護認定調査業務 (受託業務)

市原市及び他市町村からの委託を受け、介護保険要介護・要支援認定に係る調査業務を行った。

【認定調査状況】

年度 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延利用者数	月平均
R3 度利用者	1	0	3	2	3	4	5	6	6	8	5	9	52 名	4 名
R2 度利用者	3	1	0	0	0	0	0	4	4	0	2	1	15 名	1 名
増 減	△2	△1	3	2	3	4	5	2	2	8	3	8	37 名	3 名

成 果	新型コロナウイルスに感染等に不安を抱える利用者も多く、身体的・精神的なフォローを十分に行いながら、継続的にサービスが利用出来るよう支援にあたった。また、地域・包括支援センターや医療機関に積極的にアプローチすることで利用者数の増加に繋げることができた。
課題・方向性	複合的な課題を抱えている利用者が増加していることから、他の分野と課題解決に向け連携を図るとともに、利用者の自立した生活を支援していきたい。また、事業が継続出来るよう人材確保と育成に力を入れていく。

(3) 高齢者・障がい者支援活動の充実

① 送迎ボランティアサービス事業

既存の交通手段での移動が困難な高齢者及び障がい者（児）等に対し、住民参加の相互援助による外出支援を行ない、社会参加の促進と地域福祉の推進を図った。

ア) 実施状況

- ・利用者 188 世帯 203 名 (令和4年3月31 現在登録者)
- ・協力ボランティア 42 名 (")

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R3 年度	R2 年度	増減	
延利用件数	16	13	20	21	11	15	17	23	25	20	16	18	215 件	130 件	85 件	
目的別 利用件数	福祉施設利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件	
	公共機関利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	0 件	0 件	
	行事への参加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 件	2 件	△2 件	
	通 院	16	13	20	21	11	15	16	23	25	20	16	18	214 件	128 件	86 件
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1 件	0 件	1 件

イ) 送迎ボランティア養成講座

送迎ボランティアサービス事業協力者を育成することを目的として実施。

期 日	10月15日 (金)
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参 加 者	一般市民 4名、関係者 3名
内 容	説明：送迎ボランティアサービス事業について 説明：市原市社会福祉協議会職員 講義：安全運転の心得について 講師：市原警察署交通課 関根 健司氏 交流：送迎ボランティアの会との交流

ウ) 送迎ボランティア研修会

送迎ボランティアサービス事業を行うにあたり、協力者の活動をよりスムーズに行えるよう資質向上を目指すことを目的として実施。

期 日	3月22日(火)
場 所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 2階多目的室
参 加 者	送迎ボランティアサービス事業協力会員 13名
内 容	講義：心の病を抱えた方への寄り添い方について 講師：市原地域生活支援センターはばたき 施設長 阿部 康代氏 情報交換：協力者間の交流会

成 果	新型コロナウイルスの影響から利用制限期間もあったが感染対策により1月より全面再開し215件の支援を実施した。また、新規協力者確保のため、事業のPR及び養成講座を開催し新規協力者4名の確保に繋がった。
課題・方向性	引き続き、事業PRを強化するとともに、地区社協と連携した養成講座の開催など検討し、新規協力者の確保に繋げたい。また、車両の老朽化に伴う代替えについては次年度も予算要求してもらえよう働きかけていく。

② 福祉カー貸出受託事業（市受託事業）

心身障がい者(児)、高齢者等の社会参加の促進と福祉の向上を図るため、障がい者、高齢者等及びその家族並びに社会福祉施設等に対し、リフト付きワゴン車の貸出を実施した。

ア) 利用件数

項 目	月	利用 状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	R3年度	R2年度	増減
			心身障がい者(児) 及びその家族	件数	0	2	0	2	1	2	0	1	2	1	0	1	12件
	日数	0	2	0	2	1	3	0	1	5	1	0	1	16日	34日	△18日	
高齢者及びその家族	件数	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3件	5件	△2件	
	日数	0	0	1	0	0	3	0	0	0	4	0	0	8日	13日	△5日	
社会福祉団体及び 社会福祉施設	件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件	0件	1件	
	日数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1日	0日	1日	
社会福祉 ボランティア	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0件	0件	
	日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件	0日	0日	
合 計	件数	1	2	1	2	1	3	0	0	2	2	0	1	16件	24件	△8件	
	日数	1	2	1	2	1	6	0	0	5	5	0	1	25日	47日	△22日	

イ) 利用内容

項 目	内 容	利用 状況	旅行等	買物等	通院等	行事等	その他	合 計
心身障がい者(児)及びその家族	件数	0件	0件	11件	0件	1件	12件	
	日数	0日	0日	15日	0日	1日	16日	
高齢者及びその家族	件数	0件	0件	3件	0件	0件	3件	
	日数	0日	0日	8日	0日	6日	8日	
社会福祉団体及び社会福祉施設	件数	0件	0件	0件	1件	0件	1件	
	日数	0日	0日	0日	1日	0日	1日	

社会福祉ボランティア	件数	0件	0件	0件	0件	0件	0件
	日数	0日	0日	0日	0日	0日	0日
合計	件数	0件	0件	19件	1件	4件	16件
	日数	0日	0日	30日	4日	13日	25日

成 果	市担当課と連携し、利用促進に向けてこまめに協議することが出来た。介護制度や介護タクシー等の充実により、年間利用件数自体は決して多くないが、新規利用者は増加している。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により、年間の利用件数も大きく減少した。介護保険適用外の利用者等サービスの需要が高まることが想定される中、年々利用割合の減少が見受けられるため、引き続き、市担当課と連携した広報活動に努め利用促進を図る。

(4) 生活困窮者支援活動の充実

① 生活福祉資金貸付事業

市内に居住する低所得世帯などで、経済的な課題の改善を図るために必要な生活資金などを貸付け、その後の安定した生活が営めるよう、民生委員・児童委員をはじめ各専門機関等と連携した援助指導に努めた。

年度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R3年度	総合支援資金	0件	0件	0件	0円
	福祉費	15件	15件	13件	5,297,000円
	緊急小口資金	166件	165件	156件	8,887,000円
	教育支援資金	55件	49件	46件	66,101,000円
	不動産担保型生活資金	1件	0件	0件	0円
	臨時特例つなぎ資金	1件	1件	1件	30,000円
	小計	238件	230件	216件	80,315,000円
	新型コロナウイルス 特例貸付	1,881件	1,741件	1,612件	618,190,000円
	合計	2,119件	1,971件	1,828件	698,505,000円
R2年度	総合支援資金	0件	0件	0件	0円
	福祉費	9件	8件	8件	7,550,000円
	緊急小口資金	161件	157件	156件	8,243,000円
	教育支援資金	40件	36件	36件	51,994,900円
	不動産担保型生活資金	0件	0件	0件	0円
	臨時特例つなぎ資金	2件	2件	2件	60,000円
	小計	212件	203件	202件	67,847,900円
	新型コロナウイルス 特例貸付	3,281件	2,794件	2,231件	640,595,000円
	合計	3,493件	2,997件	2,433件	708,442,900円
前年度比較増減		△1,374件	△1,026件	△605件	△9,937,900円

② 療養資金貸付事業（市受託事業）

高額な療養費の支払いが困難な世帯に対し、療養費の支払いに必要な資金の貸付けを実施した。

【貸付状況】

年 度	相談件数	申 請		貸 付	
		件数	金 額	件数	金 額
R3年度	5件	0件	0円	0円	0円
R2年度	4件	3件	430,000円	3件	430,000円
増 減	△1件	△3件	△430,000円	△3件	△430,000円

③ 福祉資金貸付事業（自主事業）

市内に居住する低所得世帯を対象に、生活の安定や自立更生に向けた必要な助言指導を行うとともに、生活のつなぎ及び応急的な生活資金の貸付を実施した。

年 度	資金種類	相談件数	申請件数	貸 付	
				件 数	金 額
R3年度	応急生活費	9件	4件	4件	57,000円
R2年度	応急生活費	12件	10件	9件	135,000円
前年度比較増減		△3件	△6件	△5件	△78,000円

④ 応急法外援護

低所得で不測の事態に陥り、緊急な法外援護が必要な方に対し少額の資金を交付した。

R3年度		R2年度		前年度比較増減	
件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
147件	424,100円	178件	480,740円	△31件	△56,640円

成 果	新型コロナウイルスなどを理由とする経済的な課題を抱える世帯に対し、家計の改善や生活の安定、公的給付への繋ぎなど、必要な生活資金の貸付を行うことで、世帯の自立に向けた一助を担えた。また、複合的な課題を抱える世帯には、生活相談サポートセンター・行政などの専門機関や民生委員児童委員協議会と連携した援助に努めた。
課題・方向性	資金貸付が一時的(応急的)な援助に留まり、解決に至らず再相談される方もいることから初期相談から主訴を見極め、必要に応じ適切な専門機関等と連携した支援の強化が必要である。 また、令和4年度中に新型コロナウイルスを理由に資金貸付した世帯の償還対応が開始され、生活の再建に向けた相談の増加が見込まれることから、これまで以上に他機関との連携を密に当該世帯の再建支援に努めていく。

⑤新たな生活困窮者支援活動の構築

生活困窮者を地域全体で支える仕組みづくり（困った時はおたがいさまの地域づくり）に向けて、市社協独自の食料支援制度を開始するための試行実施として、姉崎・有秋・国分寺台地区を対象としたフードパントリーを開催した。

期 日	令和3年8月27日（土）
場 所	姉崎保健福祉センター（アネッサ）ボランティアルーム、実習室
参 加 者	姉崎・有秋地区・国分寺台地区にお住いの子育て家庭（計33世帯）

内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、企業の協力により収集した食品等を無償で配布 ・生活上の困りごとに関する相談の受付
-----	---

成 果	<p>地域住民、企業の多大な協力により多くの食品等（計 107 種 2765 品）を提供することができた。初めての取組ではあったが、地域に必要な取組として地域からの積極的な協力もあり、参加者からも感謝の言葉や笑顔が見られた。</p> <p>また、本事業の実施に際し地区社会福祉協議会、小域福祉ネットワークや町会長会等の地域団体、いちほら生活相談サポートセンター等の専門機関、行政機関と連携して事業実施をしたことでお互いの連携体制の構築を促すことができた。</p>
課題・方向性	<p>フードパントリーの試行的実施を継続し、「困った時はお互いさま」の取組として住民の意識醸成を図っていくとともに、関係機関と連携しながら、新たな生活困窮者支援（独自のフードバンク）に向けた環境整備に取り組む。</p>

みんなの顔がつながる仕組みづくり

1. 地区行動計画の推進[地区社協単位]

(1) 地区行動計画推進委員会の開催

地域の特性や課題に応じた地域福祉活動の推進を図るため、平成 29 年度から平成 30 年度にかけて、中域福祉圏域の推進主体である地区社協が中心となり、全 11 地区で「地区行動計画」を策定した。

そして、この計画の実効性を高め、確実に活動・事業を実施していくため、計画の進行管理を行う組織として「地区行動計画推進委員会」を設置し、計画の進捗状況の確認及び評価、検討を行った。

地区名	名 称	設置日	R3 年度開催回数
姉崎地区	姉崎地区福祉行動計画推進委員会	平成 31 年 1 月 22 日	1 回
五井地区	五井地区行動計画推進委員会	平成 30 年 12 月 12 日	1 回
市原地区	市原地区行動計画推進委員会 (市原地区第 2 層協議体)	平成 31 年 3 月 14 日	1 回
辰巳台地区	辰巳台地区行動計画推進委員会 (辰巳台地区第 2 層協議体)	平成 30 年 12 月 8 日	3 回
市津地区	市津地区地域福祉行動計画推進委員会 (市津地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 19 日	4 回
三和地区	三和地区行動計画推進委員会	平成 31 年 2 月 19 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
南総地区	南総地区行動計画推進委員会 (南総台地区第 2 層協議体)	平成 30 年 11 月 25 日	3 回
加茂地区	加茂地区行動計画推進委員会 (加茂地区社協理事会が機能を担う。)	平成 31 年 2 月 24 日	1 回
有秋地区	有秋地区行動計画推進委員会 (有秋地区第 2 層協議体)	平成 30 年 4 月 20 日	3 回
ちはら台地区	ちはら台地区福祉行動計画推進委員会	平成 30 年 9 月 30 日	※ 新型コロナウイルスの影響により中止
国分寺台地区	支え合いのまちづくり計画推進委員会 (国分寺台地区第 2 層協議体)	平成 31 年 1 月 20 日	3 回

※「第 2 層協議体」と機能が混在していることもあり、地区によっては委員を兼務し、両会議を一体的に開催、運営した。（姉崎、五井、三和、加茂、ちはら台地区については「第 2 層協議体」とは異なる組織で開催）

成 果	<p>第 6 次市原市地域福祉活動計画に基づく、各地区行動計画の必要に応じた見直しを図るために、地域共生社会づくりに向け具体的な見直しに向けた方向性の共有化につながった。</p>
-----	---

課題・方向性	第6次市原市地域福祉活動計画との連動性・整合性を図るために、地区行動計画の必要に応じた見直しを行う。地域共生社会の実現に向け必要な事業を行動計画に位置づけ、R5年度から新たな行動計画として推進する。
--------	---

2. 福祉圏域間の連携・協働体制の強化

(1) 小域福祉ネットワーク連絡会議の運営【※新型コロナウイルスの影響により中止】

小域福祉ネットワークの更なる推進を図るため、組織間の連携体制を構築するとともに、併せて市全域の地域福祉推進の在り方について検討・協議することを目的に次のとおり企画した。

項目	期日	議題
第1回いちほら小域福祉ネットワーク連絡会議	8月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○「第6次市原市地域福祉活動計画」(素案)の説明について ○食料支援事業「いちほらフードネットワーク」について ○令和3年度地域福祉支援事業について ○小域福祉ネットワーク推進事業補助金について ○ひまわりシート(救急情報キット)について ○情報交換会

課題・方向性	新型コロナウイルスの影響により開催を中止したことから、令和4年度は早々に開催を予定したい。また、連絡会議が小域福祉圏における地域福祉活動を効果的に推進するための会議体として、共通する課題を抽出し、解決に向けた対応策を協議・検討する場となるよう運営していく。
--------	--

(2) 地区社協連絡会の運営

地区社協活動に関する情報交換、連絡調整及び調査研究等を行うことを目的として、次のとおり地区社協連絡会を開催した。

項目	期日	議題
第1回地区社協連絡会	5月21日	<p>【会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員等の選出について 令和3年度地区社協連絡会の取り組みについて 食料支援事業「(仮)いちほらフードネットワーク」について <p>【説明会】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市社協と地区社協の関係性について 地区社協助成金について 地区担当職員の役割について
第2回地区社協連絡会	7月27日	<p>【会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第6次市原市地域福祉活動計画(素案)について 令和3年度歳末たすけあい運動について 令和3年度地域福祉支援事業について 「よつばちゃんのフードパントリー」について 地区社協における災害時の対応について <p>【実践発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国分寺台地区、辰巳台地区
第3回地区社協連絡会	10月22日	<p>【会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「よつばちゃんのフードパントリー」の報告について 地区行動計画に関する施策の具体的な考え方について 災害時救援活動のための社協基盤整備方策の改訂について 令和3年度地域福祉支援事業について <p>【実践発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 有秋地区、南総地区

第4回地区社協連絡会	11月19日	【会議】 （仮称）共生型サロン（案）について 子どもの居場所づくり事業補助金（案）について 【実践発表】 姉崎地区、三和地区、加茂地区
第5回地区社協連絡会	2月25日	【会議】 新たな相談支援体制構築の考え方（案）について 地区社会福祉協議会設置基準に基づく令和4年度地区社会福祉協議会補助金積算額について 【実践発表】 ちはら台地区、市原地区
第6回地区社協連絡会	3月14日	【会議】 地域と社会福祉法人の連携・協働による活動の推進 ～「地域福祉活動」と「地域における公益的な取組」の連携・協働に向けて～ 【実践発表】 市津地区

成 果	今年度から隔月開催として、定期的に会議を開催したことで、第6次地域福祉活動計画を踏まえた、地区行動計画における施策の考え方等、市社協と一体となり地域福祉を推進していくために必要な情報共有及び意見交換の場となった。加えて、会議を2部構成で開催し、市社協からの提案事項の検討のみではなく、各地区社協から発案できるよう時間を設けたことで、各地区の取組や抱える課題についての共有と意見交換に繋がった。
課題・方向性	今後も隔月開催を継続し、市社協の内部組織として、市社協と一体となり、本市の地域福祉を推進していくための情報共有及び地域福祉活動の活性化に向けた検討の場として活用していく。また、より地区社協からの意見を引き出し、課題の把握につなげながら、地区からの意見を市や市社協へ反映させる「ボトムアップ型」の会議となるよう、運営していく。

みんなで取り組むための基盤づくり

1. 地域福祉を支える多様な担い手の養成

(1) 人材育成事業の推進 【※一部、新型コロナウイルスの影響により中止】

地域特性に応じた地域福祉活動の充実を図るための、新たな担い手の発掘、確保に取り組んだ。

地 区	開催日数	参加者数	支援者数	内 容
辰巳台	1日	11名	8名	地域福祉のための人材確保を目的とし地区内小中学校に福祉体験教室を実施。また、辰巳台地区の地域福祉に携わる団体（地区社協・NW・ねこの手）を対象とした勉強会を実施。
市津	2日	53名	24名	地域住民を対象に日常生活支援事業についての説明会を実施。また、支援会員に対して円滑な事業展開に向け、活動における留意点等情報共有に努めた。
国分寺台	4日	19名	7名	乳幼児をを対象とする子育てサロンの担い手の養成として、講師による子どもの感性を豊かに育むことを学ぶワークショップを開催。
ちはら台				例年、開催している福祉のつどいの代替として、地区社協の活動紹介を録画したDVDを作成。自治会等に配布し、地区社協活動の理解促進及び協力者の募集に努めた。

年 度	開催地区	開催日数	参加者数	支援者数
R3年度	4地区	7日	83名	39名
R2年度	4地区	8日	205名	68名
増 減	0地区	△1日	△122名	△29名

成 果	新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、4地区で39名の協力を得て、83名の参加者に対し養成講座等を実施し、地域福祉活動への理解を深めることで活動へのきっかけづくりとなった。また、日常生活支援事業に取り組む地区社協とボランティアセンターが連携し、人材の確保に向けた養成講座を開催したことで、地域活動の担い手確保に繋がった。
課題・方向性	役員の後継者不足、担い手不足が全地区共通の喫緊の課題として、今後も、地区の特性に応じた生活課題の解決に資する事業の展開に必要な人材の確保に向け、地区社協と市社協とが連携・協働しながら人材の育成・確保のための事業展開を図る。

2. ボランティアセンター機能の強化

(1) ボランティア活動に関する相談・コーディネート

① ボランティア相談受付、コーディネート

ボランティア活動を行う（行われている）方々、施設・団体などからの活動相談、活動紹介、派遣依頼などのコーディネートを行った。

相 談 内 容	R3年度	R2年度	増減
活動希望、活動中の問題に関すること	35件	26件	9件
派遣依頼に関すること	36件	24件	12件
その他	44件	35件	9件
合 計	115件	85件	30件

② 登録者（団体）の活動実績

ボランティアグループ			
	R3年度	R2年度	増減
活動回数	5,873回	3,222回	2,651回
延参加人数	45,898名	23,111名	22,787名

個人ボランティア			
	R3年度	R2年度	増減
延参加人数	1,839名	1,717名	122名

災害ボランティア			
	R3年度	R2年度	増減
活動回数	13回	40回	△27回

依頼に対する活動状況			
	R3年度	R2年度	増減
件 数	0件	0件	0件
延参加人数	0名	0名	0名

成 果	新型コロナウイルスの影響で活動制限を受けている中でも、オンラインなど可能な活動を見つけ活動を再開した団体が多く見受けられ、昨年度より2,651回活動が増えた。感染防止の観点から受け入れ先も限定される中、活動希望者と活動先のコーディネートを行うことが出来た。
課題・方向性	登録者の中には、福祉施設等で活動している団体・個人が多く、活動再開には時間がかかる見込みである。その間の意欲低下も懸念されるため、地区担当職員と連携し、身近で活動出来る場の拡充等を図っていく。

(2) ボランティア活動に関する情報提供

社協ホームページや SNS、ボランティア情報ステーション（市原市社会福祉協議会、市原市姉崎保健福祉センター、市原市三和保健福祉センター、市原市南部保健福祉センター、老人福祉センターに設置）等で市内・外のボランティア活動情報等について、市民へ情報提供を行った。

成 果	ホームページや SNS(フェイスブック、ツイッター、LINE)を活用し、広く市民に最新情報を提供できた。また、新たな担い手を発掘するため、生涯学習センターと連携し市民大学受講者への情報発信を強化し、講座への参加や活動のマッチングに繋げることができた。
課題・方向性	SNS(フェイスブック、ツイッター、LINE)の活用を市民やボランティアに促すとともに、活動に係るタイムリーな情報発信を積極的に行っていく。

(3) ボランティア活動への支援

ボランティア活動の継続性の向上や活性化のため以下の活動支援を行った。

① ボランティア登録数

ボランティアグループ			個人ボランティア		災害ボランティア	
年度	登録団体数	登録者数	年度	登録者数	年度	登録者数
R3 年度	170 団体	4,058 名	R3 年度	132 名	R3 年度	80 名
R2 年度	180 団体	4,397 名	R2 年度	145 名	R2 年度	53 名
増 減	△10 団体	△339 名	増 減	△13 名	増 減	27 名

② ボランティア連絡協議会の事務局

活動者間の繋がりや連携づくり機会を提供するため、市原市ボランティア連絡協議会の事務局を担い協議会活動の支援を行った。

事業名	期日	会 場	主 な 内 容
総 会（書面決議）	5 月 22 日		令和 2 年度事業報告(案)について 令和 2 年度決算報告(案)・監査報告について 令和 3 年度事業計画(案)について 令和 3 年度予算(案)について 役員の変更について
リモート交流会	10 月 14 日 10 月 20 日	五井公民館	会員相互の交流
役員・E S 委員親睦会	10 月 28 日	竹・いろりの里	会員相互の親睦
パソコン・ZOOM 教室	年 13 回	五井公民館	情報共有を図るための勉強会
フリートークワークショップ	年 9 回	五井公民館	会員相互の活動情報交換
会報発行	年 2 回		「いちほらV連協だより」第 31 号（6 月）・第 32 号（12 月）広報活動
講師派遣（スマホ講習会）	7/12	千葉土建市原支部	千葉土建組員へ「スマホの使い方指導」
講師派遣（ボランティア講座）	11/19	サンプラザ 市原	いちほら市民大学で「ボランティア活動について」発表
Wifi 貸出	通年		利用件数：75 件
V 連協運営事業			市原市V連協の運営に関すること ・役員会 ・監査 ・その他打合せ

※新型コロナウイルスの影響により中止した事業

①夏休み親子体験教室 ②講演会 ③バス研修

成 果	登録ボランティアの活動支援のため、本会負担で保険加入するとともに、印刷機等備品の貸出を行った。ボランティア連絡協議会では、新型コロナウイルスの影響から一部交流等の事業を中止したが、今年度から協議会加入会員・団体の活動停滞を防ぐためWifi貸出をスタートし、オンラインを活用したボランティア活動が可能となるような活動支援に当たった。
課題・方向性	昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により活動停滞や存続の危機に直面する団体も見受けられるため、活動相談機能の充実や情報提供を積極的に行い、元気な高齢者等が地域で活躍できるような機会や場の確保に向け本会地区担当職員と連携したコーディネート力の強化を図っていく。

(4) ボランティアの普及・交流

ボランティアの普及や団体間の相互交流を活性化し、ボランティア活動の裾野の拡大と協働関係の強化を図るため以下の講座等を開催した。

① 子育て支援者交流会

子育て支援に携わっている支援者同士の交流の場を提供することで、顔の見える関係づくりを促進するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋げることを目的に計画した。

期 日	7月28日(水)
場 所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	85名
内 容	講 演：子ども虐待の現状と課題 ～地域で取り組めることとは？～ 講 師：学校法人創志学園 東京経営短期大学子ども教育学科 専任教授 小木曾 宏氏

成 果	令和2年1月に市内で発生した幼児虐待死を受け、児童虐待の現状や地域での見守りや子育て支援の重要性について講演や事例を通し再認識するとともに、今後の子育て支援活動の充実に繋がる連携のあり方などを関係者間で共通理解することができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスの影響から講義形式となってしまったことから、次回は参加者同士が顔の見える関係づくりや互いの活動の理解に繋がるような意見交換・情報交換ができる場を設けていく。

(5) ボランティアの養成

地域が抱える課題について、様々な機会を捉えて情報の収集を行うとともに、社会や地域ニーズに応じた人材の育成を図るため以下の講座等を開催した。

① 災害ボランティア養成講座

災害時のボランティア活動や災害ボランティアセンターについて基本的な知識や技術を学ぶとともに、被災後の復興支援に取り組む「災害ボランティア」を養成することを目的として実施した。

期 日	11月3日(水・祝)
場 所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室
参加者	一般市民 37名、関係者 24名
内 容	説明：災害ボランティアセンターの役割について 説明：市原市社会福祉協議会職員 講義：市原市の災害リスク及び対策について 講師：市原市役所 総務部 危機管理課 地域防災マネージャー 主幹 石本 龍一氏 演習：災害ボランティア活動のポイント(実践編) ・工具の使い方(くぎ抜きポイント) ・機材の使い方(発電機の使い方) 講師：千葉土建一般労働組合市原支部

	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープワーク（基本の結び） 講師：市原市災害ボランティアネットワーク、NPO 法人ゆかいな仲間たち、千葉県災害対策コーディネーター連絡会 ・土のう袋（自立式シートづくり） ・土のう袋（結び方や積み方のポイント） 講師：（公社）SL 災害救援ボランティアネットワーク千葉県ネット、（公社）SL 災害救援ボランティアネットワーク市原ネット <p>事務連絡：市原市災害ボランティア登録制度について ⇒ 31名事前登録</p>
--	--

② 傾聴ボランティア養成講座

相手の心に寄り添って話しを聴くことの大切さや、心と耳を傾けて話を聴くために必要な知識と技術を学び、それを活かし活動できる傾聴ボランティアの養成を図ることを目的として実施した。

（協力：傾聴の会ひだまり・傾聴の友やすらぎ・傾聴の会こだま）

期 日	12月5日（日）、12日（日）、19日（日）〔全3回〕
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
参加者	一般市民 延82名、関係者 延18名
内 容	<p>講義及び演習：傾聴ボランティアについて 講師：東京情報大学 総合情報学部 嘱託教授 田邊 昭雄氏</p> <p>実践報告：オンライン傾聴の取組について 報告：傾聴の会ひだまり 代表 青木 三郎氏</p> <p>活動紹介 発表者：傾聴の会ひだまり、傾聴の友やすらぎ、傾聴の会こだま</p>

③ 日常生活支援事業担い手養成講座

公的な福祉サービスでは対応できない地域住民が抱える日常生活上のちょっとした困りごと（例：足腰が弱く電球交換が困難、庭木の手入れが難しいなど）を住民同士で解決し合う生活支援活動の全市的な拡充を図るため、新たな支援者の掘り起こしと活躍できる場づくりを目的に実施した。

期 日	3月3日（木）
場 所	ウエルシア・コミュニケーションセンターいちほら 2階多目的室
参加者	一般市民 9名、地区関係者 23名
内 容	<p>講演：地域での支え合い活動について ～なぜ住民参加型在宅福祉サービスが必要なのか～ 講師：認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど 代表 佐久間 浩子氏</p> <p>実践発表：・三和地区「たすけあい三和」 ・市津地区「市津まごの手」</p> <p>活動紹介：・ちはら台地区「たすけあい隊」 ・辰巳台地区「たすけあい辰巳ねこの手」 ・有秋地区「くらしのささえあい」 ・国分寺台地区</p>

成 果	<p>「災害ボランティア養成講座」では、実践に即した体験型のメニューを取り入れたことで、幅広い世代（10代～70代）の方々が参加し、新たに災害ボランティアに31名が登録し、令和2年度初回から累計80名の確保に繋がった。</p> <p>また、日常生活支援事業の実践地区において課題となっていた担い手の確保に向け、新たに「日常生活支援事業担い手養成講座」を開催した。ボランティアセンターの個人登録ボランティア声掛けし、新たに活動できる場の情報提供をおこなった。受講者と活動を繋ぐため、地区ごとのマッチングコーナーを設置したことで、複数の活動者を確保できた。</p>
課題・方向性	<p>新型コロナウイルスの影響などにより活動機会が減少し、受講者のモチベーションの低下とならぬよう活動団体と調整しながら活動に繋がるためのフォローアップを図るとともに、引き続き、地域関連諸団体と連携した地域課題・ニーズの把握を行い講座の企画実施に努めていく。</p>

(6) 福祉教育（ボランティア学習）の推進

学校や団体等と連携し、次世代の福祉マインドの醸成や生涯学習のための福祉教育（ボランティア学習）の推進を図るため以下の講座を実施した。

① 出前講座

市民に対する福祉教育(生涯学習)の一環とし、市内の学校・機関・企業等からの要請に応じて講座を開催した。

年 度	学校関係	公共機関等	福祉施設、団体等	合計
R3年度	1回	3回	0回	4回
R2年度	0回	0回	1回	1回
増 減	1回	3回	△1回	3回

※学校関係は、その他3校 打合せするも感染症拡大防止を理由に中止となる。

内、2校は体験用具を貸与し教職員へ使用方法等を指導し教職員主体で実施。

成 果	東京パラリンピックの反響もあり、福祉教育(体験学習)の問い合わせが複数寄せられた。新型コロナウイルスの影響から実施に至らないケースが多かったが、教職員へ用具の使用方法を指導し、貸与にて学校主体で実施する機会もあった。また、今年度は大人を対象に福祉教育を実施する機会もあり、幅広い世代に“心のバリアフリー”を広めることができた。
課題・方向性	地域共生社会づくりの実現に向け、児童・生徒分野だけでなく幅広い世代に“心のバリアフリー”を広められるよう、次年度以降、新たに企業等にアプローチするとともに、受講者が地域で活躍できるよう地区社協等の地域関係者と連携しながら活躍できる場の拡充に努めていく。

(7) 災害ボランティア活動関連

災害時におけるボランティア活動が円滑に行われるよう、災害ボランティア活動の基盤整備・環境整備の促進を図った。

① 市原市災害ボランティア活動連絡調整会議

市原市が大規模災害に見舞われたとき、関係機関及び団体が連携し、迅速かつ効果的な支援活動を行えるよう、平常時から災害対策について情報の共有や施策の連携を図ることを目的として、市原市災害ボランティア活動連絡調整会議を実施した。

期 日	1回目：7月15日（木） 2回目：10月21日（木） 3回目：1月13（木） ※4回目は感染症拡大防止を理由に中止
場 所	市原市社会福祉協議会 3階会議室
内 容	1回目 ①災害ボランティア及びセンター動画について（報告） ②令和3年度事業計画について （災害ボランティア養成講座、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ③構成機関・団体の活動近況報告について 2回目 ①令和3年度事業について （災害ボランティア養成講座、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ②令和4年度事業計画について ③構成機関・団体の活動近況報告について 3回目 ①令和3年度事業について （災害ボランティア養成講座（報告）、災害ボランティアセンター設置運営訓練） ③構成機関・団体の活動近況報告について

② 災害ボランティアセンター設置運営訓練 【※ 新型コロナウイルスの影響により規模縮小】

「初動体制マニュアル」及び「災害ボランティアセンター運営マニュアル【改訂版】」に基づき、市原市において大規模災害が発生した場合に迅速に対応するため、災害ボランティアセンターの設置運営を行うとともに、関係団体の協力を得てサテライト災害ボランティアセンターの設置運営訓練を実施した。

期 日	2月5日(土)
場 所	市原市ちはら台コミュニティセンター 2階会議室
参加者	地区関係者 17名
内 容	説明：災害ボランティアセンターの役割について 説明：市原市社会福祉協議会職員 講義：自分たちの住むまちの災害リスクと避難所開設について 講師：市原市役所 総務部 危機管理課 地域防災マネージャー 主幹 石本 龍一氏

③ 市原市自主防災実務者講習会 (※NPO 法人ゆかいな仲間たちの主催事業)

市原市自主防災実務者講習会の中で「災害ボランティアセンター」について講義を行った。

期 日	7月11日(日)
場 所	市原市姉崎保健福祉センター 体育室

④ いちはら市民大学専門コース (※市原市の主催事業)

防災コースにて「災害ボランティアセンターの役割」について講義を行った。

期 日	12月15日(水)
場 所	サンプラザ市原11階 多目的室
受講者	13名

⑤ 令和3年度市原市総合防災訓練への参加 (※市原市の主催事業)

市原市地域防災計画に基づき、発災時における防災関係機関との連携体制の構築、より多くの市民への災害ボランティア活動の意識醸成を目的に参加する予定であったが、新型コロナウイルスにより中止。

期 日	10月31日(日)
場 所	市原市立南総中学校
内 容	災害ボランティアセンター啓発チラシ配布

成 果	新型コロナウイルスの影響で縮小規模ではあったものの、災害時のボランティア活動が円滑に行えるよう、関連諸団体や地域関係者などと協働した「災害ボランティア養成講座」や「災害ボランティアセンター設置運営訓練」を通じ、それぞれの役割を再認識するとともに連携体制の強化に努めた。また、活動基盤の強化に向け、行政、関連団体が主催する講座や講習を通じ、マンパワー確保に繋げるための積極的な周知活動に取り組んだ。
課題・方向性	災害時、迅速に対応出来るよう行政と災害ボランティアセンターの設置・運営に関する基盤整備を図ると共に、地区社協や関係機関・団体と連携・協働体制の構築を図る。

3. 地域福祉推進体制の強化

(1) 民生委員・児童委員との連携強化

市原市民生委員児童委員協議会の事務局として、その活動の推進を図った。

期 日		事 業 名	人 数	場 所
月	日			
4	2	令和2年度市民児協第3回主任児童委員部会	18名	市社協
	6	令和2年度市民児協第3回地域福祉推進部会	20名	市社協
	9	市民児協会計監査	5名	市社協
	16	市民児協第1回正副会長・部会長会議	4名	市社協
	19	令和2年度市民児協合同部会	22名	市社協
	26	市民児協第1回理事会	14名	市社協
		市民児協第1回理事研修会	12名	市社協
	28	市民児協代議員会（書面開催）	33名	
5	5～11	児童福祉週間	全委員	市内各地
	12～18	「民生委員・児童委員の日」活動強化週間	全委員	市内各地
	31	市民児協第2回正副会長・部会長会議	5名	市社協
7	9	市民児協第1回全体研修会（研修DVDの配布）	新任委員	
	26	市民児協第1回主任児童委員部会	22名	市社協
	29	市民児協第3回正副会長・部会長会議	5名	市社協
8	1	新任民生委員児童委員研修会（研修DVDの配布）	1名	
	2～	単位民児協会会長研修会（WEB上で動画配信）	11名	
	24	主任児童委員リーフレットの発行（更新）	3名	市社協
10	26	市民児協第1回地域福祉推進部会	20名	市社協
	29～	中堅民生委員児童委員研修会（WEB上で動画配信）	113名	
11	16	市民児協第4回正副会長・部会長会議	5名	市社協
	29	市民児協第2回主任児童委員部会	23名	市社協
12	3～	事例検討研修会（WEB上で動画配信）	22名	
	3～	主任児童委員研修会（WEB上で動画配信）	28名	
	10	第1回主任児童委員連絡会	1名	県社会福祉センター
	13	市民児協第2回理事会	12名	市社協
	13	市民児協第2回理事研修会	10名	市社協
	22	市民児協第2回地域福祉推進部会	22名	市社協
2	9	相談技法研修会（ZOOM使用による受講）	1名	
	24	市民児協第2回全体研修会（研修DVDの配布及びWEB上で動画配信）	全委員	
	24	市民児協第5回正副会長・部会長会議	4名	市社協

成 果	市民児協の事務局として各種会議、部会、研修会等の運営支援に取り組み、民生委員活動の資質向上及び活性化を図った。特に、コロナ禍により対面式の研修会の開催が難しい状況への対応として、研修DVDの製作やWEB上の動画配信等を新たに試み、民生委員・児童委員個々の資質向上の場を確保したことで、民生委員活動の推進に繋がった。
課題・方向性	前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け地区民児協定例会の恒常的な開催が困難であった。国内ではICT活用による非対面式のコミュニケーションツールが活用されているが、実際に使用を試みるに際して、ツールの活用や公共施設のオンライン設備等に課題が多く存在する。特に1期目の委員は地区内委員同士の交流の機会が失われていることから、部会を通じ協議を進める民生委員・児童委員一人ひとりの活動上の負担感を軽減するための委員同士の支え合いや地区民児協組織の強化と絡め、民生委員・児童委員活動を長く続けることができる体制づくりに取り組む。

2) 共催・後援等事業

社会福祉施設・団体との連携強化をはかり協働活動を促進するため、次のとおり共催、後援及び協賛を行った。

事業名	期日	会場	実施主体及び内容
第44回住宅デー	8月1日 ～8月31日	千葉土建市原 支部他	<u>千葉土建一般労働組合市原市部</u> 地域住民を対象にオンラインによる工作教室、包丁研ぎを行い、建築に関する知識の普及と啓発を図るために実施した。
社会を明るくする運動 「絵本の読み聞かせ」	7月1日 ～3月31日	市原市内小学校 他	<u>市原地区保護司会</u> 社会を明るくする運動の一環として、「コウくんときいろいはね」の絵本を読み聞かせ、子どもたちの素直な心、思いやりを育てるために実施した。
タイムカプセル郵便プロジェクト	2月～	市内各小中学校	<u>市原市青少年相談員連絡協議会</u> 市内公立小学校6年生、中学3年生が書いた、18歳の自分に向けたはがきを集め、それぞれが18歳になる年度に指定された住所に送付する。
令和3年度市原市 老人クラブ会員作品展	11月1日 ～11月4日	市原市 国分寺公民館	<u>市原市老人クラブ連合会</u> 老人クラブ会員の作品を公開展示し、地域住民に老人のもつ経験と技術の周知を図り、また、趣味活動を通じて親睦を深め高齢者の生活をより豊かなものにするを目的に実施した。
RUN 伴+いちばら 2021	8月24日 ～9月5日	市原市役所及び 市内介護サービス事業所等	<u>市原市高齢者福祉施設協議会</u> 認知症の人と地域の人が出会う機会を作り、認知症への理解を深めて、認知症の人にやさしい地域づくりを目指すことを目的に、リレーイベントを開催した。
市原刑務所誕生会 市原学園成人式	毎月	市原刑務所 市原学園	<u>市原地区更生保護女性会</u> 更生保護女性会の7支部が月別に誕生会を祝い、慰問を実施した。
重度障がい者もできる 「バリアフリースポーツ」教室	毎月	三和コミュニティーセンター他	<u>市原市中心身障害者福祉団体連絡協議会</u> 地域の障がい者・高齢者・子どもたちが共にスポーツを楽しみ、スポーツを通じて明るい仲間作りができることを目的に実施した。

指定管理施設の運営

1. 指定管理施設管理経営事業

指定管理者として、老人福祉センター、保健福祉センター（3館）をそれぞれ運営した。

施設名	指定管理期間
老人福祉センター	平成31年4月1日～令和5年3月31日
三和保健福祉センター	
南部保健福祉センター	令和2年4月1日～令和7年3月31日
姉崎保健福祉センター	令和3年4月1日～令和8年3月31日

(1) 老人福祉センター管理経営事業

高齢者に対し、各種の相談に応じるとともに健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に供与することを目的として、保健師による健康相談や血圧測定、市原警察署による交通安全指導の実施、その他教養講座を次のとおり開催した。

事業名		期 日
健康相談・血圧測定(保健師：串田保健師)		毎月1回
各種講座	大正琴	第2・第4水曜日
	書道	第1・第3金曜日
	生け花	第2・第4木曜日
	アートフラワー	第1木曜日
	絵てがみ	第1月曜日
	囲碁会	毎週火曜日
	ゲートボール	休止

① 月別利用状況

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
老人クラブ	団体数	3	1	4	3	0	1	4	5	2	2	1	1	27 団体
	人数	61	25	44	43	0	23	59	91	28	42	13	15	444 名
一般団体	団体数	21	21	26	23	11	22	26	22	23	21	18	23	257 団体
	人数	205	182	247	207	102	192	252	229	245	212	180	210	2,463 名
団体合計	団体数	24	22	30	26	11	23	30	27	25	23	19	24	284 団体
	人数	266	207	291	250	102	215	311	320	273	254	193	225	2,907 名
個人人数		1,039	901	1,097	1,008	680	947	1,009	1,004	1,033	964	916	1,071	11,669 名
総 合 計		1,305	1,108	1,388	1,258	782	1,162	1,320	1,324	1,306	1,218	1,109	1,296	14,576 名

② 利用状況前年度比較

区 分	団 体 数		前年度 比較増減	人 数		前年度 比較増減
	令和3年度	令和2年度		令和3年度	令和2年度	
老人クラブ	27 団体	22 団体	5 団体	444 名	294 名	150 名
一般団体	257 団体	170 団体	87 団体	2,463 名	1,720 名	743 名
個 人				11,669 名	8,215 名	3,454 名
合 計	284 団体	192 団体	92 団体	14,576 名	10,229 名	4,347 名

成 果	利用者の協力を得ながら、ソーシャルディスタンスや消毒など、新型コロナウイルス対策の徹底により、利用者の感染を防止できた。
課題・方向性	過去の人数に比べ、新型コロナウイルスの影響により利用者、特に団体での利用が減少しているため、より感染対策を強化し、利用者に安心して利用していただけるように心がける。

(2) 姉崎保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に
行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況〔貸室〕

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
体育室	2,419	2,195	3,011	2,262	2,340	3,216	2,997	3,094	2,752	2,321	1,904	2,488	30,999	19,434	11,565
ボランティアルーム	375	325	398	555	358	356	483	268	315	250	262	330	4,275	3,706	569
実習室	165	164	296	369	233	233	235	238	224	187	109	180	2,633	2,317	316
調理実習室	0	0	0	36	0	0	6	12	13	0	25	9	101	68	33
研修室	610	588	1,171	1,235	891	717	1,051	1,075	774	642	444	1,433	10,631	7,186	3,445
多目的ホール	608	529	787	649	401	654	1,006	740	609	492	330	549	7,354	5,646	1,708
ゲートボール場	12	13	8	126	6	7	14	13	13	13	10	13	248	151	97
相談室	31	19	58	44	89	30	115	42	40	56	55	48	627	442	185
合計	4,220	3,833	5,729	5,276	4,318	5,213	5,907	5,482	4,740	3,961	3,139	5,050	56,868	38,950	17,918

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
ニコニコキッズ	5月17日 7月19日 9月27日 11月15日 12月20日 1月24日 3月14日	ボランティアによる手作り遊具を活用し、開放された遊びの場を提供することで、親子が交流を図り情報交換を行う等の子育ての支援を行うことを目的として実施。 ※5月、7月、9月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	71名
ニコニコボランティア	4月～3月 (全17回)	ニコニコキッズで使用する手作りおもちゃの作成や、事業を運営するボランティアの育成及び支援を図ることを目的として実施した。 ※8月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	153名
世代間交流事業 卓球教室	7月31日 8月1日	高齢者の卓球グループの方々を講師として小学生を対象とした卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	68名
バリアフリー スポーツ教室	6月27日 7月25日 8月22日	障がい児(者)を中心としたバリアフリースポーツを地域の高齢者、児童、ボランティアと一緒に体験することで、障がい者への理解を深め交流の機会を作るために実施した。	98名
昔あそび	6月26日 10月30日 1月22日 3月19日	昔から伝承されている子どもの遊びを教わるとともに一緒に楽しみながら世代間の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催) 協力：シルバー友の会	129名
アネッサ発 クリーン大作戦	11月20日	施設利用者と地域住民とで地域の清掃活動を行い、地域に貢献するとともに、世代間・サークル間の交流を図り相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館と共催)	116名
手話入門講座	1月15日～ 3月19日 (毎週土曜日 全10回)	市民に対し、障がい者に対する理解とボランティア意識の向上を図るため、初心者のための手話入門講座を実施した。	68名
チャレンジ 夏休みの課題	8月4日 8月5日 8月6日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(児童館及び青少年会館と共催)	52名
グランドゴルフ大会	9月12日	社会体育振興会の呼び掛けにより、世代間の交流を図ることを目的として実施。(社会体育振興会と共催) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	0名

普通救命講習	5月18日 5月25日	万が一における事故等に市民が対応できる知識及び技術を身につけてもらうための講習会を実施した。	9名
施設内美化活動	4月10日 5月8日 6月12日 9月11日 10月2日	敷地内の除草を利用者に呼びかけ、ボランティア意識の向上と親睦を図ることを目的として実施した。	31名
自主防災講習会	7月10日 7月11日 7月17日 7月18日	防災についての知識を高め、地域防災の在り方や取り組みについて学ぶことを目的として実施。 (NPO 法人ゆかいな仲間たちと共催)	626名
ボランティア活動紹介	9月1日 ～9月30日	アネッサを利用するボランティアグループの活動紹介を掲示することで、市民のボランティア活動への関心を高めるとともに、活動の周知及び啓発を図ることを目的として実施した。	11団体
サークル活動紹介	10月1日 ～10月31日	日頃アネッサを利用しているサークルの活動紹介を掲示し、地域住民に広く周知することで、生きがいのある活動のきっかけづくりとすることを目的として実施した。	11団体
レコード交流会	4月～3月 全12回 (毎月)	レコード鑑賞(茶話会)を通じて地域住民の居場所づくりを行い、交流する機会を提供することを目的として実施した。	249名
おもいっきり体育室	6月26日 8月28日 10月30日 3月19日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。(児童館と共催)	134名
体験！ ニュースポーツ	10月24日	子どもから高齢者まで様々な世代が交流する機会をつくり、ニュースポーツを通じて健康増進や親睦を深めることを目的として実施。 (市原市クラブ協会と共催) ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	0名
あそびばアネッサ	11月27日	子どもの居場所を提供するとともに、「あそび」を通じた住民同士の交流により、地域内の福祉ニーズの発掘や福祉に対する理解促進を図ることを目的として実施。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催) ※体験！ニュースポーツの代替事業として実施。	117名

成 果	児童館や地域の各種団体等との共催で事業を行うことで、内容の充実や参加者数の拡充を図ることができた。また、保健福祉センターの特性を活かしたさまざまな事業を行うことで、高齢者、児童、障がいのある方などが相互理解を深め、交流を図ることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止をした事業もあったが、各種事業を通じて外出の機会や交流の場などを提供することができた。今後も地域の福祉ニーズや相談に応じ、適切な管理運営と住民参加による各種事業を企画実施していく。また、広報誌やホームページ、SNSを活用し、積極的な広報活動を行って活動のPRを進めていく。

② 老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で豊かな心で生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
大広間	団体	0	19	0	22	0	0	0	17	0	0	0	58	17	41
	個人	648	561	654	701	563	550	715	685	633	631	600	637	7,578	5,416
和室	67	28	37	10	9	24	19	50	22	32	15	52	365	252	113
男性浴室	494	474	461	418	429	455	544	523	541	526	531	588	5,984	3,625	2,359
女性浴室	142	139	145	129	120	148	160	164	186	196	189	189	1,907	1,122	785
合計	1,351	1,221	1,297	1,280	1,121	1,177	1,438	1,439	1,382	1,385	1,335	1,466	15,892	10,432	5,460

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
ヨガ教室	4月6日～ 6月15日 (毎週火曜日 全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けのヨガ教室。 講師：鈴木 なぎさ氏	94名
一文字書を楽しむ (書道教室)	4月9日 4月16日 4月23日 4月30日	色紙に好きな一字を書く。 講師：大野 蘭秀氏	19名
健康体操教室	10月2日 10月9日 10月16日 10月23日	高齢者の体力の維持増進を目的とした健康体操。 講師：有山 貴子氏	97名
フラワーアレンジ メント教室	7月7日 7月21日	フラワーアレンジメントの基本について学んだ。 講師：茂木 朋美氏	18名
はじめての 太極拳教室	10月4日～ 12月13日 (毎週月曜日 全10回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした初心者向けの太極拳教室。 講師：山崎 辰雄氏	223名
絵手紙教室	11月12日～ 1月21日 (毎週金曜日 全10回)	絵手紙の基本について学んだ。 講師：東 洋子氏	96名
そば打ち教室	12月5日	そば打ちの基本を学んだ。 講師：斉藤 忠夫氏	7名
介護予防講話 ・体操教室	2月12日 2月19日 2月26日 3月12日	高齢者の体力の維持増進を図り介護予防に繋げる。 講師：地域包括支援センターたいよう 地域包括支援センターしおみ	61名
折り紙教室	5月26日 5月27日	折り紙を使用して鶴や馬、小箱を作成。 講師：福田 進一氏	20名
ヨガ教室中級	9月7日～ 10月12日 (毎週火曜日 全6回)	高齢者の体力の維持増進を目的とした経験者向けのヨガ教室。 講師：鈴木 なぎさ氏	56名
メンズキッチン	2月20日	男性を対象とした料理教室。 講師：市原市食生活改善協議会姉崎支部 岩撫 幸子氏	9名
中国水墨画教室	10月2日 10月9日	初心者向けの中国水墨画教室。 講師：陳 珂氏	37名

	10月16日 10月23日		
ハンドメイド(トールペイント)教室	9月1日 9月22日	トールペイントの基本について学んだ。 講師：黒川 美智子氏	16名
茶話会	4月～3月 (全12回)	一人暮らし高齢者や高齢者世帯にふれあいの場を提供し、地域との交流促進を図ることを目的として実施した。 (姉崎地区社会福祉協議会との共催) ※4月～9月、2月、3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	131名
歩こう会	4月～3月 (全12回)	高齢者の介護予防と生きがいがいづくりの場を提供することを目的として実施した。 (姉崎小学校区小域福祉ネットワークとの共催) ※4月～9月、1月～3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。	38名

成果	各事業、参加人数の制限など、新型感染症予防対策を十分に行うことで事故なく安全に事業を実施することができた。また、例年実施している事業の他、新規事業を実施することで多くの利用者の参加を得ることができ、事業目的である社会参加の契機や介護予防に繋げ、高齢者福祉の推進に寄与することができた。
課題・方向性	前年度と比較し、今年度は新型感染症による休館がなかったため、来館者は増加している。今後も継続して利用を促進するために、本会ホームページやアネッサだより等での広報活動を積極的に行う必要がある。各種事業においてはアンケートの結果、非常に満足しているとの声が多数あったため、改めて内容を精査し講座の充実を図る。

③ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
児童	256	248	403	368	345	304	353	273	362	185	211	269	3,577	1,887	1,690
保護者	220	214	313	309	237	243	326	366	320	179	176	227	3,130	1,771	1359
合計	476	462	716	677	582	547	679	639	682	364	387	496	6,707	3,658	3049

イ) 子育て支援拠点事業(ポヨポヨクラブ・のびのびクラブ・ひよこクラブ)「毎週火・木・金曜日」

未就学児とその保護者を対象とし、育児不安の解消や情報交換の場を提供するとともに、親子のふれあい、子育てに役立つ情報等を提供するために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
ポヨポヨクラブ	83	50	109	111	79	70	67	99	42	50	105	92	957	469	488
のびのびクラブ	63	114	120	48	0	87	58	70	108	69	51	75	863	432	431
ひよこクラブ	44	58	66	40	0	36	75	92	46	54	40	52	603	342	261
合計	190	222	295	199	79	193	200	261	196	173	196	219	2,423	1,243	1,180

ウ) 相談支援事業「通年」(R3年度より実施)

子育ての不安感等を緩和するために実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談件数	6	1	6	0	0	3	1	6	0	0	3	0	26

エ) 定期企画事業 「水曜日・日曜日」

毎月第2水曜日は、多胎児をもつ保護者を対象に「ふたごっちクラブ」、第3水曜日はボランティアによる「英語で遊ぼう」、第4水曜日はボランティアによる音楽を取り入れた「ママといっしょ」を実施。また、毎週日曜日はゲームや工作活動を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
英語で遊ぼう	24	22	39	/	/	13	17	10	/	13	/	17	155	115	40
ママといっしょ	53	39	31	/	/	28	30	27	/	27	17	25	277	70	207
ふたごっちクラブ	18	0	0	0	/	0	0	3	3	10	3	6	43	29	14
ゲーム・工作	15	21	22	57	64	14	23	9	10	6	18	13	272	260	12
合計	110	82	92	57	64	55	70	49	13	56	38	61	747	185	562

オ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
登録者	11	3	4	7	4	7	5	8	0	0	1	0	50	25	25
貸出(冊)	208	206	278	274	96	236	234	246	66	66	142	0	2,052	1,318	734

カ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内容	参加者
アネッサ発 クリーン大作戦	11月20日	施設利用者と地域住民とで行う地域の清掃活動に参加することでボランティア活動への意識を高めることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	116名
中高生による 子育てクラブ	通年	中高生ボランティアによる読み聞かせ、手あそびなど。	76名
乳幼児のための 救急法	11月11日	乳幼児を持つ保護者が家庭内における突発の事故に対処するための基礎知識を習得することを目的として実施した。 講師：姉崎消防署	18名
アネッサ自然体験	10月3日	自然に親しみながら情操を豊かにするとともに、集団生活を通して協調性及び責任感を認識させることを目的として実施。	19名
おもいきり体育室	6月26日 8月28日 10月30日 3月19日	参加者が自由に体を動かして、様々な遊びを楽しむことや、ボランティアと参加者同士の交流を図ることを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催)	134名
おもしろ実験教室	8月7日	児童自らが創造し、自らの手で作る楽しさを体験することにより情操を豊かにするとともに集団活動を通じて協調性及び責任を認識させることを目的として実施した。 講師：市原袖ヶ浦少年少女発明クラブ	11名
昔あそび	6月26日 10月30日 1月22日 3月19日	ボランティアとの交流を図りながら、昔から伝承されている子どもの遊びを楽しみ、交流を図るために実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力：シルバー友の会	129名
児童館クリスマス会	12月22日	未就学児とその保護者が安心して過ごせる場所を提供し、子どもの成長と子育てに悩む保護者同士の交流の場として利用されることを目的として実施した。	142名
ガーランド作り	11月28日	児童が自ら体験することにより、季節を感じる心や手作りすることへの喜びや豊かな心を育むことを目的として実施した。	7名
食育座談会	6月17日	食について日頃の悩みなどを話し合い、食の大切さを学ぶとともに、食に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。 講師：市原市保健センター栄養士	14名
世代間交流事業 卓球教室	7月31日 8月1日	高齢者の卓球グループの方々を講師として卓球教室を開催することで、世代間の交流を図ることを目的として実施した。	68名

		(地域福祉センターと共催)	
乳幼児のための交通安全教室	12月1日	乳幼児をもつ保護者が、日常における交通マナーの基礎知識を取得し、交通安全に役立てることを目的として実施した。	11名
ハンドメイド(トールペイント)教室	2月5日	児童自らの手で作る楽しさを知り情操を豊かにするとともに、協調性・責任感を認識させることを目的として実施した。 講師:黒川 美智子 氏	3名
ママのリフレッシュ講座	1月28日	日頃の育児疲れやストレスを発散し、リフレッシュしてもらうことを目的に「エンドレスカード作り」を実施した。	12名
児童館大運動会	10月22日	発育時期に分かれ実施している事業を合同にしてイベントを行うことで、通常事業とは違う情報交換や仲間作りの場の提供も兼ね、参加者間及び親子間の交流を図ることを目的に実施した。	43名
すこやか講座	9月28日 11月25日 2月25日	育児についての日頃の悩みなどを話し合い、育児の大切さを学ぶとともに、育児に対する適切な情報提供を行うことを目的として実施した。	59名
チャレンジ夏休みの課題	8月4日 8月5日 8月6日	近隣小学校児童の夏休み期間中の学習をサポートすることを通じて世代間の交流を図り、相互理解を深めることを目的として実施した。(地域福祉センター及び青少年会館と共催)	52名
キッズボランティアクラブ	通年	児童のボランティア活動への参加促進を図ることを目的とし、小中学生のボランティアによる子育てクラブでの発表に向けて練習した。	114名
お楽しみ劇場	8月24日 12月3日 3月4日	人形劇を通して情操を豊かにするとともに、協調性を養うことを目的として実施した。 ※3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	50名
ドールシアター	11月16日 2月予定	人形劇を通して想像力を豊かにするとともに、情操や協調性等を養うことを目的として実施した。 ※2月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	32名

成果	乳幼児とその保護者向けの事業だけでなく、小中高生や地域のボランティアの協力など、幅広い年齢層の方たちとの交流を持つことで児童の健全育成を図ることができた。また、中高生が読み聞かせ等を行うとともに、小学生はキッズボランティアとして多世代との交流を図るなど、ボランティア意識の向上と育成に努めることができた。 今年度も新型感染症拡大防止に伴い利用人数の制限等を行ったが、より安全に配慮することで事故なく事業を実施することができた。
課題・方向性	新型感染症拡大防止のため、事業においては人数制限を設けたが、参加者からは少人数で安心できたとの声が聞かれた。今後の通常開催において人数が増加しても安心して事業に参加できるよう、創意工夫をしていく必要がある。また、利用者アンケート等を活用し、ニーズに合った事業を検討していくとともに、ホームページやフェイスブック、ツイッター、ラインなどのSNSを活用したPRを行っていく。

(2) 三和保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に
行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。

ア) 月別利用状況[貸室]

※台風で被災し多目的ホールが令和3年10月2日から令和4年3月31日まで休室

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
ボランティアルーム	215	251	238	216	138	190	324	367	355	340	298	324	3,256	1,743	1,513
研修室	163	155	161	174	87	116	160	160	144	112	111	151	1,694	1,013	681
多目的ホール	482	452	442	307	268	443	5	0	0	0	0	0	2,399	3,562	△ 1,163
創作活動室	76	84	79	72	61	51	147	120	92	67	74	89	1,012	737	275
合計	936	942	920	769	554	800	636	647	591	519	483	564	8,361	7,055	1,306

イ) 年間事業実施状況

※新型コロナウイルス対策として人数制限を行った。

事業名	期日	内容	参加者
おもちゃ図書館	4月～3月 (毎月第2・4 土曜日)	障がい児と未就学児を対象に、おもちゃで遊ぶことを通して心身の健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を図ることを目的として、ボランティアグループ「かるがも」の協力により実施した。新型コロナウイルス対策のため、おもちゃの貸出のみとした。	338名
さんあーとくらぶ	4月～3月 (第2日曜日)	障がいのある方を対象に、ボランティアの協力による絵画・工作教室を実施した。 講師：米元志慶子氏	45名
フレンズ	4月～3月 (毎月第1・3 木曜日)	発達が気になる未就学児を対象に、遊びの場と機会を提供し、遊びを通して健全な発達を促すとともに、保護者同士の交流を目的として、発達支援センターの協力を得て実施した。	505名
自由空間	4月～3月 (毎月第2木 曜日)	NPO法人こころの相談室いちはらと協働し、ひきこもりや不登校、社会に出ることが困難な方々を対象に相談や、談話することにより社会へ出ていくための支援を行った。	31名
子育てサロン さんわぼかぼか	4月～3月 (毎月第4日曜 日 8、1月除 く10回) 4月・9月休止	地区社会福祉協議会と連携し、主に未就学児と保護者を対象に遊びと交流の場を提供すること及び見守りや相談等の活動を担うボランティアの育成支援を目的に実施した。	139名
世代間交流	7月17日 11月14日	60歳以上の高齢者と未就学児がおもちゃ作りやクイズラリーを介して交流することで喜びを感じてもらうことを目的として実施した。	52名
歌声喫茶	7月14日 9月24日 12月22日	サンハート利用者や地域住民を対象に、音楽を通じて参加者相互のふれあいや交流を図り、また、利用団体に対して活動の披露の場を提供した。新型コロナウイルス対策のため、楽器演奏のみとした。	78名
さんさんクリーン 大作戦	12月5日	地域住民やサンハート利用者が協力して清掃活動を行うことで、交流しながら地域の環境美化を实践し、併せてボランティア活動の啓発を図ることを目的として、施設周辺のごみ拾いを実施した。	50名
サンハートまつり	1月23日	新型コロナウイルス感染防止の観点から規模を縮小し、施設の周知及びサークル活動の活性化を図ることを目的として、作品展示会を実施した。	56名

市民講座	9月11日 10月9日	地域住民を対象に、福祉についての関心を深め、住み良い地域づくりを推進するために「認知症サポーター養成講座」講座を実施した。また、補完講座として「オレインミーティング」を実施した。	12名 10名
------	----------------	---	------------

成果	新型コロナウイルスの影響により事業計画の変更や実施規模の縮小を伴ったが、地域福祉関係団体等と連携・協力を得て取り組めたことで地域との連携の強化に繋げることができた。また、地域住民をはじめ幅広い層に交流の場や支援の場を提供することとすることができた。
課題・方向性	新型コロナウイルスに起因する利用者が減少しているため、利用者ニーズに沿った事業の展開を工夫し、感染危惧に対する対策を徹底することで安心・安全な施設利用環境を整え利用促進につなげて行く。

②老人福祉センター

地域の高齢者が集うことにより、社会的孤立感の解消、身体的及び精神的な負担の軽減を図るとともに、健康で心豊かな生きがいのある生活ができるよう各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	24	0	24	0	0	30	0	5	0	83	78	5
大広間(個人)	268	255	233	288	323	308	306	296	331	329	309	363	3,609	2,082	1,527
和室	20	28	27	26	37	22	54	31	39	16	13	14	327	203	124
男性浴室	665	638	699	769	660	694	628	650	634	594	621	724	7,976	5,188	2,788
女性浴室	260	263	260	282	249	260	227	253	229	234	245	284	3,046	1,945	1,101
生活相談室	40	27	31	33	7	0	27	31	22	22	24	44	308	247	61
合計	1,253	1,211	1,250	1,422	1,276	1,308	1,242	1,261	1,285	1,195	1,217	1,429	15,349	9,743	5,606

イ) 年間事業実施状況

※ 新型コロナウイルス対策として人数制限を行った。

事業名	期日	内容	参加者
健康体操教室	5月12、19、26、 6月2日 10月13、20、27、 12月10日(8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：大前陽子氏	60名
楽しく俳句教室	9月2、9、16、30日 (4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：木村孝一氏	39名
気功教室	5月11、18、25日、6 月1日 (4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：上久保治子氏	28名
ヨガ教室	5月13、20、27日、 6月3日 10月14、21、28、11月 4日(8回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：古川佳子氏	56名
絵手紙教室	7月13、20日 11月9、16日(4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：向井艶子氏	31名
いつでも脳トレ教室	7月7日(1回)	介護予防のための健康づくりの知識の習得を図ることを目的として実施した。 講師：豊留富美氏	7名

ボールエクササイズ教室	6月9、16、23、30日 (4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：根本壽美子氏	32名
テーブルでできる茶の湯教室	10月18、25日、 11月1、8日 (4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的に実施した。 講師：白川ますみ氏	53名
一文字書教室	11月4、11、18、25日 (4回)	趣味活動と交流の場を提供することを目的とし実施した。講師：大野文子氏	32名
リズムストレッチング教室	4月12、19、26、22日 (3回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：山村祥子氏	22名
健康太極拳教室	9月8、15、22、29日 (4回)	健康づくりの習慣化を図るとともに、交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：等々力啓子氏	30名

成果	新型コロナウイルスの影響により事業計画の変更や実施規模の縮小を伴ったが、運動機能維持等に繋がる新たな教室を開催するなど利用者ニーズに応えた事業展開をしたことで、フレイル予防への関心や健康意識の高揚が図れた。
課題・方向性	新型コロナウイルスへの感染が危惧される中、高齢者のニーズに沿った事業の展開を工夫と事業継続により参加意欲を高め、感染対策の徹底により、安心・安全な施設利用環境を整え利用促進に繋げて行く。

③児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した。(10月2日以降は2階保健指導室を活用)

なお、新型コロナウイルス感染防止対策として一部の事業を中止、ないし定員を縮小して実施した。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
児童	82	85	92	146	227	134	40	86	91	84	87	126	1,280	1,174	106
保護者	52	63	75	120	151	103	36	81	98	75	84	116	1,054	1,157	△103
合計	134	148	167	266	378	237	76	167	189	159	171	242	2,334	2,331	3

※台風16号で被災し遊戯室・図書室が令和3年10月2日から令和4年3月31日まで休館
10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで再開

イ) 子育て支援事業

下記の a)、b)、c) の事業は新型コロナウイルス感染症感染防止対策として合同くらぶ形式で実施した。

a) さんさんくらぶ・きらきらくらぶ「毎週火・金曜日」

乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブ。

b) よちよちくらぶ「毎週水曜日」

11ヶ月から1歳6ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブ。

c) あかちゃんくらぶ「毎週木曜日」

生後3ヶ月から10ヶ月の乳児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的とした児童厚生員による子育てクラブ。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者(さんさん)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
参加者(きらきら)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
参加者(よちよち)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
参加者(あかちゃん)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0
参加者(合同)	-	-	-	24	65	54	14	52	54	38	48	73	422	1,897	△ 1,475
合計	0	0	0	24	65	54	14	52	54	38	48	73	422	0	422

ウ) クラフト&プレイ「第1～3及び第5日曜日」・みんなあそぼう「毎週第4日曜日」

児童自らの手で作り、描き、物事を演じる楽しさを味わうことにより、情操を豊かにするとともに、集団活動を通じて協調性及び責任感を認識させることを目的に実施した。新型コロナウイルス感染症感染防止の観点から一部を中止または休止とした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者(クラフト&プレイ)	中止	中止	中止	-	-	-	-	10	6	3	0	6	25	0	0
保護者(みんな遊ぼう)	中止	中止	中止	-	-	-	-	0	0	休止	休止	休止	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	10	6	3	0	6	25	0	0

エ) 児童館ボランティアクラブ

児童を対象に、ボランティアの育成を目的として、児童館ボランティアクラブに登録してもらい、イベントにおいて読み聞かせを行った。

期 日	内 容	参加者
8月3、4日	子育て支援イベントにおいて、紙芝居の読み聞かせ	7名

オ) 放課後クラブ「毎週火～金曜日(学校の長期休暇期間を除く)」

小学生の放課後の居場所づくりを目的とした工作教室等を予定したが、新型感染症感染防止の観点から中止した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	R2年度	増減
参加者	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	中止	0	0	0

カ) 図書貸出状況

児童の情操の向上に寄与するもの及び子育てに関する図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
新規登録者	3	3	11	9	4	5	4	6	3	7	5	2	62	39	23
貸出(冊)	93	75	94	115	156	113	56	75	41	59	101	100	1,078	1,086	△ 8

※令和3年10月2日から令和4年3月31日まで休館

10月20日から図書の一部貸出を2階ラウンジで再開

キ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
グリーンガーデン	7月21、27日 8月12、20、 24日	花の種まき及び水やり(児童館脇のウッドデッキに朝顔のグリーンカーテンを設置)	8名
ベビーマッサージ教室	6月10日、24日	助産師の指導によるベビーマッサージ 講師：嶋津一恵氏	19名

人形劇	3月8日 3月18日	「人形劇団とんとん」による人形劇上演 「グループともだち」による人形劇上演	10名 中止
夏休み子ども工作教室	7月29日	ペットボトルを使って手動式ロープ・ロケット作り 講師：児童厚生員	6名
夏休み子ども布ぞうり教室	8月6日	タオルで布ぞうり作り 講師：宍倉春江氏	中止
夏休み子ども絵手紙教室	8月7日	絵手紙で掛け軸作り 講師：向井艶子氏	4名
親子ベビーヨガ教室	9月10日	乳幼児母子でベビーヨガを体験する 講師：篠宮方美氏	11名
知ってよかったママの救急法	10月27日	乳幼児のケガや誤飲などの手当での仕方を実技指導により学ぶ 講師：市原市中央消防署員	8名
世代間交流事業	1月14日 3月29日	ボランティアによる絵本の読み聞かせと折り紙工作、カードシアター アコーディオン演奏と曲に合わせた手遊び	10名 10名

成果	新型感染症感染予防対策として利用人数などに制限を加え、台風被災後は利用可能施設を活用することで事業を実施し、幼児・児童及び保護者に安心して参加でき、親子の心が通い合える場の提供ができた。また事業参加を通じて保護者の悩み事など聴き、適切な助言等を行うことで相互の関係性の向上や子育て支援に繋げることができた。
課題・方向性	新型感染症への感染が危惧にされる中、親子が気兼ねなく安心して触れ合える場所が少なくなっている。感染予防対策の徹底と励行により、安心して利用できる安全な施設環境を整え親子の触れ合いの場を提供して行く。

④障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア)月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
研修室	357	224	452	159	209	293	335	256	268	256	213	289	3,311	2,217	1,094
プレールーム	202	309	382	301	263	269	522	413	429	352	298	351	4,091	1,839	2,252
障がい者談話室	202	309	382	301	263	269	522	413	429	352	298	351	4,091	1,839	2,252
療育相談室	23	14	34	23	76	4	9	23	24	11	13	26	280	191	89
合計	784	856	1,250	784	811	835	1,388	1,105	1,150	971	822	1,017	11,773	6,086	5,687

(4) 南部保健福祉センター管理経営事業

① 地域福祉センター

地域住民及びボランティア等の民間福祉団体の福祉活動の拠点として、各種福祉情報の提供を総合的に
行い、もって地域住民の福祉の高揚を図った。また、地域住民の福祉ニーズや相談に応じるとともに、適
切な管理運営と住民参加による各種事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

※令和3年4月20日～8月1日(まん延防止等重点措置期間)及び令和3年8月2日～9月30日(緊急事態宣言期
間)は施設定員の50%以下での利用とした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
ボランティアルーム	74	165	47	333	134	239	314	256	216	91	92	49	2,010	1,817	193
調理実習室	7	0	0	0	8	6	18	33	20	16	15	9	132	6	126
多目的室	517	590	567	1,105	644	947	1,242	875	921	481	480	496	8,865	5,047	3,818
創作活動室	12	19	8	212	105	187	338	99	81	6	28	0	1,095	938	157
会議室②	116	162	107	474	149	367	392	239	163	101	80	45	2,395	1,751	644
合計	726	936	729	2,124	1,040	1,746	2,304	1,502	1,401	695	695	599	14,497	9,559	4,938

イ) 年間事業実施状況

事業名	期日	内 容	参加者
子育て支援事業 (子育てサロン)	11月24日 12月15日 12月25日 2月16日	市内在住の就学前の児童とその保護者が仲間作りと住民同士 が交流できる憩いの場を設け、親子のふれあいを通して子ど もの健全育成と地域福祉の推進を図った。(児童館と共催) 講師 市原市地域連携推進課(幼児のための交通安全教室) ボランティアグループ「ぐりとぐら」(親子うきうきお話し会) 更生保護女性会南総支部(絵本の読み聞かせ) ボランティアグループ「ぐりとぐら」(親子うきうきお話し会)	54名
なのはなフェスタ	7月26日	地域住民の交流と当館の利用拡大を目指し、各センターと地 域の関係団体との連携によりイベントを行うことで様々な世 代が交流し、またボランティアとして参画していただくこと で、地域の担い手として活躍できる場(居場所)づくりを目 指すことを目的に計画した。 【※ 新型コロナウイルスの影響により中止】	—
ふれあいサロン 事業	12月10日 1月24日 2月9日 2月25日	地域住民の交流やふれあいの場を目的としたサロンを実施し た。 講師:中村 佳代 氏 協力団体:市原市地域包括支援センター トータス 市原市地域包括支援センター ひまわり アコーディオンドレミファ	74名
地域交流事業 (歌声喫茶)	6月9日 9月29日 12月8日	生演奏による音楽を通じて参加者全員が一緒に歌う(マスク 着用による歌唱)ことにより、相互のふれあいや交流を図っ た。 協力団体:チャーリーウクレレクラブ アコーディオンいちほら	105名
世代間交流事業 (アコーディオン演奏会他)	1月22日	市内在住の未就学児から高齢者まで幅広く参加者を募り、多 様な世代の交流を通して楽しい時間を過ごす中で相互理解を 深めることを目的として計画した。	27名
障がい者交流事業 (ポッチャ交流体験会)	7月4日	パラスポーツを通じて障がいのある方と地域住民の方の交流 を図り、相互理解とこころのふれあいを目的として実施し た。	24名

成 果	コロナ禍のため外出を控えていた住民が交流しふれあう機会となった。また関係団体の協力を得たことで連携強化と住民のニーズへの対応に繋げることができた。
課題・方向性	交流の中から地域課題や個々の困りごとを把握し対応することが必要であり、コロナ禍において多くの参加者を集めることができない分、一人ひとりに向き合った事業の展開を目指していく。

② 中高年健康増進施設

地域の中高齢者の健康増進に寄与するために、各種教室を開催した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
健康増進施設	1,577	1,397	1,528	1,584	1,711	1,698	1,857	1,645	1,534	1,176	1,110	1,478	18,295	12,008	6,287

事業名	期 日	内 容	参加者
水中ウォーキング	毎月月曜日 年 14 回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、アクアビクス・アクアウォーキングに筋トレを加味しながら、体力向上と健康意識を高めることを目的に実施した。	109 名
月例講習会 (体力向上レッスン)	毎月金曜日 年 12 回	健康増進室・歩行用プール安全講習会受講登録済みの方を対象に、健康な身体を創るための筋トレなどを行うとともに健康意識を高めることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	56 名
安全講習会	毎週 3 回 (火・木・土曜日) 年 162 回	安全管理を徹底し事故防止を図ることを目的に実施した。	66 名
簡単ストレッチ 教室	毎週 3 回 (水・金・日曜日) 年 146 回	準備体操・整理体操としてのストレッチの普及、定着を図ることを目的に実施した。 講師：株式会社 パーソンアンドパーソンスタッフ	1,229 名

成 果	習慣的な運動を通じて、より効果的な運動と健康意識の増長に繋がった。
課題・方向性	新型コロナウイルスにより社会全体が疲弊しているなか、楽しく一緒に運動することで体力的な健康増進だけでなく精神面での健康にも配慮した事業を展開していく。

③ 老人福祉センター

高齢者が健康で明るい生活が送れるよう憩いの場を提供するとともに、豊かな心で生きがいのある生活が送れるように、健康増進や介護予防を目的とした各種講座を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
大広間(団体)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大広間(個人)	343	315	351	343	262	285	320	330	315	312	302	371	3,849	2,778	1,071
和室	0	0	12	19	27	52	0	0	10	0	0	0	120	694	△ 574
合計	343	315	363	362	289	337	320	330	325	312	302	371	3,969	3,472	497

イ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
-----	-----	-----	-----

健康体操教室	6月～10月 (全10回)	高齢者の健康づくりを目的として、健康体操教室を実施した。 講師：山口 紀美代 氏	192名
ヨガ教室① 「初級」	10月～12月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	182名
ヨガ教室 「中級」	4月～6月 (全8回)	健康維持と仲間作りを目的として、ヨガ教室を実施した。 講師：古川 佳子 氏	140名
ハーモニカ教室	5月～7月 (全8回)	ハーモニカを通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：高松 洋子 氏	74名
一文字書教室	1月～2月 (全5回)	書道を通じて高齢者に趣味活動と交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：大野 文子 氏	34名
太極拳教室	7月～8月 (全5回)	太極拳という運動を通して、健康づくりの推進と交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 講師：等々力 啓子 氏	98名
太巻き寿司教室	11月 9日 1月 25日 (全2回)	市原市の伝統的な太巻き寿司の作り方を学ぶとともに交流の場を提供することを目的として実施した。 講師：小出 一子 氏	15名
健康教室① 「講話」	9月 15日	高齢者を対象に「介護予防のための栄養」の講話を計画した。 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏	17名
健康教室② 料理教室	10月 15日	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 「これからの体力を維持するための料理」 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏	14名
健康教室③ 料理教室	11月 25日	料理実習を通して日々の食生活全般の活性化を図るとともに交流の場を提供することで、地域の福祉の推進を図る。 「高血圧予防のための料理」 講師：千葉県循環器病センター栄養科部長 石橋 裕子 氏	17名
健康教室④ 健康太極拳	2月 9日・16日 (全2回)	太極拳を通して心身の健康と基礎代謝の向上を目的として実施。 講師：等々力 啓子 氏、松井 将子 氏	26名

成果	市内在住の高齢者に対し、創作活動や運動を通じて生きがいと心身の健康増進を図ることができた。また、在宅生活に役立つ知識や技術を習得することにより、健康で充実した生活へとつなげることができた。
課題・方向性	健康志向に対するニーズが高く、できるだけ要望に応えたいところではあるが、多様性のある事業を開催することにより様々な知識や経験を通じて体力面だけでなく心の健康と生きがいづくりも目指していく。

④ 児童館

児童に健全な遊びを提供し、健康の増進及び体力の向上を図るとともに、情操を豊かにすることを目的として各種の事業を実施した他、子育て支援や青少年の健全育成に努めた。

ア) 月別利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
児童	76	89	90	106	103	65	106	77	83	46	47	101	989	748	241
保護者	65	78	85	93	75	74	98	82	75	54	59	87	925	666	259
合計	141	167	175	199	178	139	204	159	158	100	106	188	1,914	1,414	500

イ) 子育て支援事業

a) あかちゃんクラブ『ほっぷ』 「毎週金曜日」

3ヶ月から1歳頃の乳幼児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者	56	40	47	33	16	16	27	10	18	2	4	6	267	256	11

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者	17	31	42	26	39	39	46	36	48	19	25	48	368	238	130

c) 親子クラブ『じゃんぷ』 「毎週土曜日」

未就学児をもつ保護者を対象とし、育児についての情報交換や仲間作りの場を提供することにより、育児に関する不安の解消を図ることを目的として、子育てクラブを実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者	19	35	22	16	6	12	33	47	17	34	10	25	251	101	150

ウ) 定期企画事業『わくわくイベント』工作、おはなし会、ゲームなど 「月3回 日曜日」

児童に工作や読み聞かせなどを通して、情操を豊かにするとともに協調性を養うことを目的として実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
参加者	5	17	14	12	15	6	14	18	10	2	10	28	123	62	61

エ) 図書貸出状況

児童の情操を豊かにする紙芝居や図書の閲覧、貸出を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
登録者	9	5	7	5	8	2	4	2	4	1	7	5	59	42	17
貸出(冊)	88	129	109	163	201	157	167	174	88	130	129	273	1,808	536	1,272

オ) 年間事業実施状況

事業名	期 日	内 容	参加者
子どもボランティア育成支援事業	12月11日 —	中高生のボランティア育成を目的として、ボランティア体験活動を計画した。 【※2回目以降は新型コロナウイルスの影響により中止】	2名 —
自然体験活動事業 「なのはな探検隊」	7月18日 9月19日	不登校児を含めた小中学生が自然に親しむことにより、自然を大切に、情操を豊かにすることを目的として実施した。 講師：柳池 繁 氏	11名 11名
なのはなシアター 「親子うきうき☆おはなし会」	12月15日 2月16日	児童の豊かな情操と協調性等を育むことを目的として実施した。 ボランティアグループ「ぐりとぐら」による人形劇上演	22名 17名
交通安全教室	11月24日	未就学児とその保護者対象の交通安全教室 講師：地域連携推進課 交通安全係	8名
世代間交流事業 「昔あそび」 「アコーディオン演奏会」	11月20日 1月22日	子どもから高齢者まで様々な世代の方々が交流する機会を作り、昔遊びの面白さの再発見、遊びの技術の伝承を通じて、他者との関わり方、おもしろい心の育成を育むことを目的として実施した。 (地域福祉センターと共催) 協力団体：「いちほらシルバー友の会」 「アコーディオンドレミファ」	28名 27名

なのはな実験教室	8月1日	児童が科学に親しみ、豊かな情操を育むことを目的として、科学遊びや工作を実施した。 講師：柳池 繁 氏	8名
ママのリフレッシュ	9月3日	親子のスキンシップと親同士の交流により家庭での楽しい子育てと親のリフレッシュに繋がることを目的として、ベビーマッサージを実施した。 講師：森澤 美津紀 氏	6名
親子であそぼう (親子体操)	10月13日	乳幼児を持つ保護者を対象に、家庭で楽しく子育てに取り組み、子どもが健やかに育つように支援することを目的として、親子で楽しめる体操や身体遊びを実施した。 講師：蔭山 陽子 氏	25名
季節のイベント	4月～3月 (33回)	児童自ら体験することで情操を豊かにし、協調性を育むことを目的として、季節感のある工作やおはなし会を実施した。	204名
親子の料理教室	2月6日	親子で料理を楽しむことによって子どもの豊かな情操を育むことを目的としてお菓子作りを実施した。 講師：吉野 知子 氏	10名

成 果	コロナ禍でイベント参加人数や利用時間が制限され、新型感染症の感染が危惧されるなかで地域の居場所として親子の絆を強め、安心して交流できる場の提供ができた。
課題・方向性	室内での活動が制限されることにより、自動館の利用を控える親子も多い。感染防止対策に十分考慮しながら室内外問わず安心して来館できる環境を整えていく。

⑤ 障がい者福祉センター

障がいを持った方に対し、社会との交流促進や余暇支援のための便宜を提供し、福祉の増進を図るための事業を実施した。

ア) 月別利用状況[貸室]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	R2年度	増減
障がい者交流室	450	432	445	609	684	932	659	519	545	417	403	502	6,597	4,014	2,583
会議室①	88	200	79	665	350	786	374	267	418	162	152	44	3,585	2,107	1,478
合計	538	632	524	1,274	1,034	1,718	1,033	786	963	579	555	546	10,182	6,121	4,061